

(別表3-②)

言語聴覚学科 教育課程 (令和8年度以降入学の方)

1 専門基礎分野

科目	第1年次		第2年次		時間数	単位数	備考
	前期	後期	前期	後期			
人体のしくみ・疾病と治療							
医学総論	30				30	1	
解剖学Ⅰ	30				30	1	
生理学		30			30	1	
病理学		30			30	1	
内科学		30			30	1	
小児科学		30			30	1	
精神医学		30			30	1	
リハビリテーション医学			30		30	1	
耳鼻咽喉科学	30				30	1	
臨床神経学Ⅰ		30			30	1	
臨床神経学Ⅱ			30		30	1	
形成外科学		15			15	1	
臨床薬理学・栄養学			30		30	1	
臨床歯科医学	30				30	1	
解剖学Ⅱ	30				30	1	
解剖学Ⅲ	30				30	1	
解剖学Ⅳ	30				30	1	
小計	210	195	90	0	495	17	
心の働き							
臨床心理学Ⅰ	30				30	1	
臨床心理学Ⅱ		30			30	1	
生涯発達心理学Ⅰ	30				30	1	
生涯発達心理学Ⅱ		30			30	1	
学習・認知心理学	45				45	2	
心理測定法	30				30	1	
小計	135	60	0	0	195	7	
言語とコミュニケーション							
言語学Ⅰ	15				15	1	
言語学Ⅱ		30			30	1	
言語学Ⅲ		15			15	1	
言語学Ⅳ			15		15	1	
音声学	45				45	2	
音響学	30				30	1	
聴覚心理学		15			15	1	
言語発達学	15				15	1	
小計	105	60	15	0	180	9	
社会保障・教育とリハビリテーション							
社会保障・教育・リハビリテーション	30				30	1	
小計	30	0	0	0	30	1	
専門基礎分野合計	480	315	105	0	900	34	

2 専門分野

科目	第1年次		第2年次		時間数	単位数	備考
	前期	後期	前期	後期			
言語聴覚障害学総論							
言語聴覚障害学Ⅰ	30				30	1	
言語聴覚障害学Ⅱ		30			30	1	
小計	30	30	0	0	60	2	
言語聴覚療法管理学							
言語聴覚療法管理学Ⅰ			15		15	1	
言語聴覚療法管理学Ⅱ			15		15	1	
小計	0	0	30	0	30	2	
失語・高次脳機能障害学							
失語症Ⅰ-1	30				30	1	
失語症Ⅰ-2		30			30	1	
失語症Ⅱ			60		60	2	
高次脳機能障害学Ⅰ	30				30	1	
高次脳機能障害学Ⅱ		30			30	1	
失語・高次脳機能障害学総論				15	15	1	
小計	60	60	60	15	195	7	

言語発達障害学							
言語発達障害Ⅰ	30				30	1	
言語発達障害Ⅱ		30			30	1	
言語発達障害Ⅲ		30			30	1	
言語発達障害Ⅳ			30		30	1	
言語発達障害Ⅴ			30		30	1	
言語発達障害Ⅵ			30		30	1	
言語発達障害学総論				15	15	1	
小計	30	60	90	15	195	7	
発声発語・摂食嚥下障害学							
発声発語障害Ⅰ		30			30	1	
発声発語障害Ⅱ		30			30	1	
発声発語障害Ⅲ			30		30	1	
発声発語障害Ⅳ			30		30	1	
発声発語障害Ⅴ			30		30	1	
摂食嚥下障害Ⅰ	30				30	1	
摂食嚥下障害Ⅱ		30			30	1	
摂食嚥下障害Ⅲ			45		45	2	
発声発語・摂食嚥下障害総論				15	15	1	
小計	30	90	135	15	270	10	
聴覚障害学							
小児聴覚障害Ⅰ		30			30	1	
小児聴覚障害Ⅱ			30		30	1	
成人聴覚障害Ⅰ		30			30	1	
成人聴覚障害Ⅱ		30			30	1	
視覚・聴覚二重障害			15		15	1	
補聴器・人工内耳			30		30	1	
聴覚障害学総論				15	15	1	
小計	0	90	75	15	180	7	
地域言語聴覚療法学							
地域言語聴覚療法学			30		30	1	
言語聴覚療法総合演習（通年）			15	15	30	1	
小計	0	0	45	15	60	2	
臨床実習							
臨床実習Ⅰ		40			40	1	
臨床実習Ⅱ		40			40	1	
臨床実習Ⅲ				160	160	4	
臨床実習Ⅳ				160	160	4	
臨床実習Ⅴ				280	280	7	
小計	0	80	0	600	680	17	
専門分野合計	150	410	435	675	1670	54	
総合計	630	725	540	675	2570	88	
年次合計	1355		1215		2570	88	

3 選択科目

科目	第1年次		第2年次		時間数	単位数	備考
	前期	後期	前期	後期			
レクリエーション活動援助法							
レクリエーション活動援助法Ⅰ	30				30	1	
レクリエーション活動援助法Ⅱ		30			30	1	
レクリエーション活動援助法Ⅲ			30		30	1	
小計	30	30	30	0	90	3	

*講義・演習は15～30時間を1単位、臨床実習は40時間を1単位とする。

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
医学総論	北島 崇	1	1	前期	必修

◇講義概要

健康・疾病と健康環境、医療倫理、保健統計、疫学・予防医学、各種保健、感染症対策について学ぶ

◇到達目標

- ・健康、疾病、障害の概念と社会環境について説明できる
- ・医療倫理、医療行為について説明できる
- ・健康管理、各種保健、予防医学について説明できる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	健康の概念、健康影響要因、予防医学	講義	
第2回	医療倫理、医療関係法規	講義	
第3回	医療行為、チーム医療・多職種連携、地域医療	講義	
第4回	医療の安全管理、研究倫理、臨床倫理	講義	
第5回	保健統計、人口統計、死因統計、疾病統計	講義	
第6回	疫学、EBM（根拠に基づいた医療）	講義	
第7回	障害者福祉、リハビリテーション、ノーマライゼーション、ICF、QOL	講義	
第8回	成人保健、生活習慣病	講義	
第9回	母子保健	講義	
第10回	高齢者保健	講義	
第11回	精神保健、産業保健、健康管理、健康診断	講義	
第12回	環境保健	講義	
第13回	感染症対策	講義	
第14回	まとめ	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	公衆衛生がみえる 2026-2027 （メディックメディア）
参考図書	なし
留意事項	授業前には当該授業部分の教科書を読んでおくこと。授業後は講義内容の理解を深めるために、概要・ポイントをまとめること。

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
解剖学 I	坂田 進	1	1	前期	必修

◇講義概要

人体の正常機能を理解するために、細胞、組織、皮膚、骨、筋、血液、免疫系において、機能（生理学）と関連づけて構造（解剖学）を学習する。

◇到達目標

1. 構造・疾病と関連づけて生理機能を説明できる。
2. 生命現象の不思議さについて理論的に考察できる能力を修得する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	解剖生理学とは？ーホメオスタシスとフィードバック機構	講義	
第 2 回	細胞と組織(1)ー細胞の構造と機能	講義	
第 3 回	細胞と組織(2)ー組織の構造と機能	講義	
第 4 回	皮膚と膜(1)ー皮膚と膜の構造と機能	講義	
第 5 回	皮膚と膜(2)ー体熱産生、体温	講義	
第 6 回	骨格系(1)ー骨機能、骨形成、骨の改変	講義	
第 7 回	骨格系(2)ー頭蓋、体幹の骨格、体肢の骨格、関節	講義	
第 8 回	筋系(1)ー筋の機能、収縮機序、エネルギー代謝	講義	
第 9 回	筋系(2)ー骨格筋（頭部、体幹）	講義	
第 10 回	筋系(3)ー骨格筋（上肢、下肢）、筋の病気	講義	
第 11 回	血液(1)ー血球成分、血球機能	講義	
第 12 回	血液(2)ー血球分化、凝固と線溶、血液型	講義	
第 13 回	免疫系(1)ー自然免疫系、獲得免疫系	講義	
第 14 回	免疫系(2)ー免疫と感染症、自己免疫疾患、アレルギー	講義	
第 15 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 62 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☒ 小テスト（ 28 %） ☒ レポート（ 10 %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	「人体の構造と機能（1）解剖生理学」（ナーシンググラフィカ） 「イメージできる解剖生理学」（ナーシングサブリ）
参考図書	「カラーで学ぶ解剖生理学」（医学書院）
留意事項	学習に時間を十分に割いて、「人体の生命の営みの巧妙さ」を理解するように努めて下さい。

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
生理学	坂田 進	1	1	後期	必修

◇講義概要

人体の正常機能を理解するために、消化器、腎、内分泌腺、生殖器、神経、感覚器において、これらの生理機能をその構造・疾病に関連づけて学習する。さらに、実習を通して生理機能の理解を深める。

◇到達目標

1. 構造・疾病と関連づけて生理機能を説明できる。
2. 生命現象の不思議さについて理論的に考察できる能力を修得する。
3. 自らが被験者となる実習を通して学習内容の理解を深める。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	消化器系(1)－食欲、咀嚼、嚥下	講義	
第 2 回	消化器系(2)－消化の生理	講義	
第 3 回	消化器系(3)－吸収・排泄の生理	講義	
第 4 回	泌尿器系(1)－腎の生理	講義	
第 5 回	泌尿器系(2)－排尿の生理	講義	
第 6 回	内分泌系(1)－脳ホルモン、甲状腺ホルモン、上皮小体ホルモン	講義	
第 7 回	内分泌系(2)－膵ホルモン、副腎ホルモン、性腺ホルモン	講義	
第 8 回	生殖器系－女性生殖器の生理、男性生殖器の生理	講義	
第 9 回	神経系(1)－ニューロン、シナプス、中枢神経系	講義	
第 10 回	神経系(2)－末梢神経系、生体リズム	講義	
第 11 回	感覚系(1)－視覚、聴覚、平衡覚	講義	
第 12 回	感覚系(2)－嗅覚、味覚、体性感覚、内臓感覚	講義	
第 13 回	生理学実習(1)－視覚機能の測定	演習	
第 14 回	生理学実習(2)－重量感覚の測定	演習	
第 15 回	試験	試験	

評価方法	■試験 (62 %) □実技試験 (%) ■演習評価 (4 %) ■小テスト (24 %) ■レポート (10 %) □その他 (%)
------	---

教科書	「人体の構造と機能（１）解剖生理学」（ナーシンググラフィカ） 「イメージできる解剖生理学」（ナーシングサプリー）
参考図書	「カラーで学ぶ解剖生理学」（医学書院）
留意事項	学習に時間を十分に割いて、「人体の生命の営みの巧妙さ」を理解するように努めて下さい。

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
病理学	今井 俊介	1	1	後期	必修

◇講義概要

様々な病気および病的状態の原因、それらの発症・進展の過程などを、細胞レベルまで掘り下げ、病気の本質を科学的に学ぶ。

◇到達目標

言語聴覚士として、病気を抱える人たちに寄り添うには、病気の実態を正確に把握することが必要不可欠である。主要な病気を、循環障害や遺伝子異常などのように系統的に整理し、それぞれを細胞・組織レベルおよび肉眼レベルで総合的に理解することを目指す。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	病理学とは	講義	
第 2 回	細胞・組織の損傷	講義	
第 3 回	炎症	講義	
第 4 回	免疫	講義	
第 5 回	アレルギー	講義	
第 6 回	感染症	講義	
第 7 回	循環器障害 充血とうっ血	講義	
第 8 回	循環器障害 虚血と梗塞	講義	
第 9 回	代謝障害	講義	
第 10 回	先天異常の分類	講義	
第 11 回	先天異常 染色体異常と遺伝子異常	講義	
第 12 回	腫瘍とは何か	講義	
第 13 回	悪性腫瘍の広がりと影響	講義	
第 14 回	脳・神経系の疾患	講義	
第 15 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	系統看護学講座, 専門基礎分野, 病理学 第 6 版, 医学書院
参考図書	
留意事項	講義内容は、理解度に応じて変更することがある 授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
内科学	竹澤 祐一	1	1	後期	必修

◇講義概要

内科疾患は多岐にわたるため臓器別・系統別の各論を説明し、個々の内科疾患の理解を促したうえで診断などの総論を解説する。
--

◇到達目標

内科疾患を理解し、対象者の全身状態の把握が可能となることにより、リハビリテーションを効率よく安全に行うことができる。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	内科学とは 循環器疾患 1	講義	
第 2 回	循環器疾患 2	講義	
第 3 回	呼吸器疾患 1	講義	
第 4 回	呼吸器疾患 2	講義	
第 5 回	消化器疾患	講義	
第 6 回	肝胆膵疾患	講義	
第 7 回	血液・造血器疾患	講義	
第 8 回	代謝性疾患	講義	
第 9 回	内分泌疾患	講義	
第 10 回	腎・泌尿器疾患	講義	
第 11 回	アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症	講義	
第 12 回	感染症	講義	
第 13 回	リハビリテーションに必要な栄養学 症候学	講義	
第 14 回	内科学診断と治療の実際	講義	
第 15 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第 5 版 (医学書院)
参考図書	なし
留意事項	授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなど、復習に励むこと。

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
小児科学	田中 輝房	1	1	後期	必修

◇講義概要

1. 小児の成長と発達を学ぶ。 2. 小児期特有の基本的な生理と病気について学ぶ。
--

◇到達目標

1. 小児科学の特長である小児の発達（運動、精神など）を理解する。 2. 小児期に多くみられる疾患について時には生理学とともに理解する。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	第 1 章：A,B 小児の発達と成長 P3～16	講義	
第 2 回	第 1 章：C,D 栄養と小児保健 P16～30	講義	
第 3 回	第 3 章：新生児・未熟児疾患 P39～58	講義	
第 4 回	第 4 章 A～D：先天異常 P59～70	講義	
第 5 回	第 4 章 E：先天代謝異常 P70～77	講義	
第 6 回	第 5 章：神経・筋肉疾、第 7 章：骨疾患 P78～114、P125～129	講義	
第 7 回	第 8 章：循環器疾患 P130～141	講義	
第 8 回	第 9 章、10 章：呼吸器疾患と感染症 P142～164	講義	
第 9 回	第 11 章：消化器疾患 P165～176	講義	
第 10 回	第 12 章：内分泌疾・代謝疾患 P177～186	講義	
第 11 回	第 13 章：血液疾患・第 16 章：腫瘍性疾患 P187～196、P214～217	講義	
第 12 回	第 14 章：免疫・アレルギー疾患、膠原病 P197～206	講義	
第 13 回	第 15 章：腎・泌尿器疾患 P207～213	講義	
第 14 回	第 6 章：発達障害・17 章以降 P115～125、P218～244	講義	
第 15 回	試験	試験	

評価方法	■試験（ 95%） □実技試験（ %） □演習評価（ %） □小テスト（ %） □レポート（ %） ■その他（ 宿題 5%）
------	---

教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第 6 版：医学書院
参考図書	適時プリントを配布する
留意事項	①各講義の範囲を一読し、予習しておくこと ②おおむね 各講義の終了後、宿題を出します。次回講義日 午前中までに提出すること。

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
精神医学	中井 邦秀	1	1	後期	必修

◇講義概要

精神医学の基礎知識を学習する。具体的には、総論、各論（器質性精神障害、機能性精神障害、神経性精神障害、人格障害、児童期・青年期の発達障害、精障害、老年期の障害）。

◇到達目標

各精神疾患の特徴と発症メカニズムの仮説を概説できる。
治療薬の標的と治療過程における変化を関連づける

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	精神疾患の診断と評価	講義	
第 2 回	発達障害①総論・自閉スペクトラム症	講義	
第 3 回	発達障害②ADHD・その他	講義	
第 4 回	統合失調症	講義	
第 5 回	気分障害①大うつ病性障害	講義	
第 6 回	気分障害②双極性障害	講義	
第 7 回	アルコール・薬物依存症	講義	
第 8 回	動機付け面接	講義	
第 9 回	自傷・自殺	講義	
第 10 回	神経症	講義	
第 11 回	向精神薬総論	講義	
第 12 回	精神遅滞、てんかん	講義	
第 13 回	認知症	講義	
第 14 回	摂食障害・パーソナリティ障害	講義	
第 15 回	レポート試験	試験	

評価方法	☐ 試 験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教 科 書	心の健康が見える（メディックメディア）
参考図書	こころの健康がみえる MEDIC MEDIA
留意事項	授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
耳鼻咽喉科学	宮原 裕	1	1	前期	必修

◇講義概要

耳科学、鼻科学、口腔・咽頭科学、喉頭科学、気管食道科学、頭頸部腫瘍学の解剖、生理、疾患の病態について学ぶ
--

◇到達目標

・耳科学、鼻科学、口腔・咽頭科学、喉頭科学、気管食道科学、頭頸部腫瘍学について学び理解する ・急性炎症、慢性炎症、難聴、めまい（平衡障害）、腫瘍（良性・悪性）、救急疾患（外傷、鼻出血、呼吸障害、異物）、遺伝性疾患を理解する
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	耳鼻咽喉科学の特長、診察、治療法の進歩、（解剖の図配布）	講義	
第 2 回	鼻科学 解剖、生理（嗅覚）、鼻腔疾患（花粉症・アレルギー性鼻炎など）	講義	
第 3 回	鼻科学 副鼻腔疾患（副鼻腔炎など）、 耳科学 解剖、生理、	講義	
第 4 回	耳科学 外耳疾患、中耳疾患（慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎、滲出性中耳炎など）、顔面神経麻痺	講義	
第 5 回	耳科学 内耳疾患（めまい疾患(BPPV、メニエール病、前庭神経炎、聴神経腫瘍など))、遺伝子異常、補聴器、新生児・幼児難聴スクリーニング	講義	
第 6 回	耳科学 聴力検査・平衡機能検査	講義	
第 7 回	口腔・咽頭科学 解剖、生理（味覚）、口腔疾患（口内炎、前癌病変など）	講義	
第 8 回	口腔・咽頭科学 咽頭疾患（扁桃炎と手術、咽後膿瘍、咽喉頭異常感症など）	講義	
第 9 回	喉頭科学 解剖、生理、喉頭疾患（炎症、声帯ポリープなど）	講義	
第 10 回	喉頭科学 喉頭疾患（反回神経麻痺など）、音声障害	講義	
第 11 回	気管、食道科学 解剖、生理、異物、気管切開、甲状腺・唾液腺・頸部腫瘍など	講義	
第 12 回	頭頸部腫瘍学（1） 頸部郭清術、上顎癌、口腔癌、甲状腺癌	講義	
第 13 回	頭頸部腫瘍学（2） 喉頭癌、咽頭癌（上、中、下）、喉摘後の音声リハビリ	講義	
第 14 回	頭頸部腫瘍学（3） 副鼻腔癌、鼻副鼻腔乳頭腫、嚥下障害と嚥下リハビリ	講義	
第 15 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	耳鼻咽喉科ビジュアルブック 第2版 Gakken
参考図書	病気がみえる 13 巻耳鼻咽喉科 MEDIC MEDIA 言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学（第3版）、田山二郎編、医学書院
留意事項	授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床神経学 I	前川 基継	1	1	後期	必修

◇講義概要

脳血管障害、脳神経外科学などについて学ぶ

◇到達目標

- ・脳神経、脳血管系について説明できる
- ・脳疾患の原因、対応について理解できる

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	脳神経外科緒論	講義	
第 2 回	脳・脊髄の臨床解剖① 頭蓋と頭蓋内腔構造、髄膜、脳室と髄液循環	講義	
第 3 回	脳・脊髄の臨床解剖② 大脳、脳幹、小脳、脊髄の解剖と機能・局所徴候	講義	
第 4 回	脳・脊髄の臨床解剖③ 脳神経の機能、主要脳血管の走行・支配領域	講義	
第 5 回	神経学的検査	講義	
第 6 回	脳神経疾患の補助診断法	講義	
第 7 回	脳に特異的な症候と病態	講義	
第 8 回	脳腫瘍① 脳腫瘍の分類、発生頻度、症状、診断、治療法	講義	
第 9 回	脳腫瘍② 神経膠腫、髄膜腫など各脳腫瘍	講義	
第 10 回	脳血管障害① 脳血管障害の疫学、出血性脳血管障害	講義	
第 11 回	脳血管障害② 虚血性脳血管障害、もやもや病	講義	
第 12 回	頭部外傷	講義	
第 13 回	機能的脳神経外科、炎症性疾患	講義	
第 14 回	総復習	講義	
第 15 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試 験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教 科 書	標準 脳神経外科学 第 15 版 (医学書院)
参 考 図 書	
留 意 事 項	授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
形成外科学	川上正良・山川延宏・柳生貴裕・ 大澤 政裕・金川紗央理	1	1	後期	必修

◇講義概要

形成外科学総論、口唇・口蓋裂、頭蓋・顔面の異常、外傷、頭頸部外科手術にともなう変形・機能障害等について学ぶ。

◇到達目標

代表的な疾患とその治療法について理解する

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	担当
第 1 回	顎発育の異常とその治療法	講義	川上正良
第 2 回	顎顔面外傷	講義	柳生貴裕
第 3 回	顎変形症	講義	大澤 政裕
第 4 回	口唇裂口蓋裂	講義	山川延宏
第 5 回	口腔癌と口腔顎顔面再建	講義	山川延宏
第 6 回	皮膚の構造と熱傷	講義	金川紗央理
第 7 回	皮膚の良性腫瘍、悪性腫瘍	講義	金川紗央理
第 8 回	試験	試験	川上正良

評価方法	☒ 試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	標準 形成外科学 第 7 版 (医学書院)
参考図書	器質性構音障害治療のポイント 口腔顎顔面領域の異常と言語障害 (医歯薬出版)
留意事項	授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床歯科医学	西口 雄祐・濱田 翔央・浜中 康弘	1	1	前期	必修

◇講義概要

顎口腔の構造と歯科・口腔外科疾患の特徴、病因および治療法の基本概念を理解し、言語聴覚士としての基礎知識を深める。

◇到達目標

1. 歯・口腔・顎・顔面の構造と機能を理解できる。
2. 歯・歯周組織の疾患および歯科医学的処置の基本概念を理解できる。
3. 口腔・顎・顔面の損傷の特徴と治療法の基本概念を理解できる。
4. 口腔・顎・顔面の炎症・感染症の特徴と治療法の基本概念を理解できる。
5. 口腔・顎・顔面の嚢胞・腫瘍・類似疾患の特徴と治療法の基本概念を理解できる。
6. 口腔・顎・顔面の先天異常・発育異常の特徴と治療法の基本概念を理解できる。
7. 口腔・顎・顔面の神経系疾患、疼痛性疾患、心因性病態の特徴と治療法の基本概念を理解できる。
8. 唾液腺疾患・顎関節疾患の特徴と治療法の基本概念を理解できる。
9. 口腔粘膜疾患の特徴と治療法の基本概念を理解できる。
10. 歯列不正と歯科矯正治療の基本概念を理解できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	第 1 章 1 歯・口腔・顎・顔面の形態と構造	講義	濱田
第 2 回	第 1 章-2 歯・口腔・顎・顔面の発生と発育 第 1 章-3 歯・口腔・顎・顔面の機能 第 1 章-4 口腔の診査法	講義	濱田
第 3 回	第 3 章-1 口腔・顎・顔面の先天異常	講義	濱田
第 4 回	第 3 章-2 口腔・顎・顔面の発育異常・損傷	講義	濱田
第 5 回	第 3 章-3 口腔・顎・顔面の炎症・感染症	講義	濱田
第 6 回	歯科矯正学	講義	浜中
第 7 回	第 3 章-4 口腔・顎・顔面の嚢胞および類似疾患	講義	濱田
第 8 回	第 3 章-9 口腔粘膜疾患	講義	濱田
第 9 回	第 3 章-6 唾液腺疾患・8 顎関節疾患	講義	西口
第 10 回	第 3 章-5 口腔・顎・顔面の腫瘍および類似疾患	講義	西口
第 11 回	第 3 章-5 口腔・顎・顔面の腫瘍および類似疾患	講義	西口
第 12 回	第 3 章-7 口腔・顎・顔面の神経系疾患、疼痛性疾患、心因性病態	講義	西口
第 13 回	第 4 章-咀嚼・摂食・構音障害に対する歯科医学的治療法	講義	西口
第 14 回	第 7 章-5 口腔疾患による構音障害 6 舌・口底切除・顎切除後の構音障害	講義	西口
第 15 回	試験 (60 分) 解説 (30 分)	試験・講義	西口

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

評価方法	☒ 試 験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教 科 書	言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学 第 2 版 医歯薬出版株式会社
参考図書	
留意事項	授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
解剖学Ⅱ	坂田 進	1	1	前期	必修

◇講義概要

人体の正常機能を理解するために、呼吸器と循環器について、機能（生理学）と関連づけて構造（解剖学）を学習する。さらに、実習を通して呼吸循環機能の理解を深める。

◇到達目標

1. 呼吸・循環器系において、構造・疾病と関連づけて生理機能・病態生理を説明できる。
2. 呼吸・循環器系について理論的に考察できる能力を修得する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	呼吸・循環器系とは？－なぜ、酸素が必要か？	講義	
第 2 回	呼吸器系の構造(1)－鼻腔、咽頭、喉頭、気管、肺	講義	
第 3 回	呼吸器系の構造(2)－胸郭、呼吸筋	講義	
第 4 回	呼吸生理学(1)－換気、外呼吸	講義	
第 5 回	呼吸生理学(2)－ガス交換、血液酸素解離曲線	講義	
第 6 回	呼吸生理学(3)－内呼吸、ガス運搬	講義	
第 7 回	呼吸生理学(4)－化学受容器、呼吸中枢	講義	
第 8 回	呼吸検査－呼吸曲線、努力呼吸曲線、フローボリューム曲線	講義	
第 9 回	循環器系(1)－心臓の構造	講義	
第 10 回	循環器系(2)－刺激伝導系、心周期、心電図	講義	
第 11 回	循環器系(3)－心臓血管、胎児循環	講義	
第 12 回	循環器系(4)－血圧、リンパ系	講義	
第 13 回	生理学実習(1)－血圧・心拍数の測定－基礎編	演習	
第 14 回	生理学実習(2)－血圧・心拍数の測定－応用編	演習	
第 15 回	試験	試験	

評価方法	■試験（ 62 %） □実技試験（ %） ■演習評価（ 4 %） ■小テスト（ 24 %） ■レポート（ 10 %） □その他（ %）
------	--

教科書	「人体の構造と機能（1）解剖生理学」（ナーシンググラフィカ） 「イメージできる解剖生理学」（ナーシングサブリ）
参考図書	「カラーで学ぶ解剖生理学」（医学書院）
留意事項	学習に時間を十分に割いて、「人体の生命の営みの巧妙さ」を理解するように努めて下さい。

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
解剖学Ⅲ	今野 奈央	1	1	前期	必修

◇講義概要

- ・聴器の構造・機能・病態について理解するとともに、聴覚障害を病変部位別に分類しその特徴や鑑別診断の方法について学ぶ。

◇到達目標

1. 聴覚系の構造・機能を説明できる
2. 聴覚障害の原因疾患を説明できる。
3. 聴覚障害を病変部位別に分類し、その特徴を説明できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	音の基礎知識	講義	今野
第 2 回	聴器の概要、聴器の解剖・生理機能：外耳、外耳道	講義	今野
第 3 回	聴器の解剖・生理機能：鼓膜、鼓室、耳管、乳突蜂巣、耳小骨	講義	今野
第 4 回	聴器の解剖・生理機能：聴覚器としての内耳（蝸牛）	講義	今野
第 5 回	聴器の解剖・生理機能：中枢、内耳神経	講義	今野
第 6 回	聴器の解剖、生理機能：平衡器としての内耳（前庭、半規管）	講義	今野
第 7 回	聴器の発生	講義	今野
第 8 回	[小テスト]、難聴の分類、オーディオグラム、伝音難聴	講義	今野
第 9 回	聴器の病態：伝音難聴（外耳・中耳の疾患）	講義	今野
第 10 回	聴器の病態：伝音難聴（中耳の疾患）②、感音難聴（概要）	講義	今野
第 11 回	聴器の病態：感音難聴（後天性の疾患）	講義	今野
第 12 回	聴器の病態：感音難聴（先天性の疾患）	講義	今野
第 13 回	聴器の病態：聴力の変動、後迷路性難聴、機能性難聴	講義	今野
第 14 回	聴器の病態：まとめ	講義	今野
第 15 回	試験	試験	今野

評価方法	☒ 試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☒ 小テスト（ 20 %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	最新言語聴覚学講座 聴覚障害学（医歯薬出版株式会社） 聴覚検査の実際 改訂 5 版（南山堂）
参考図書	病気がみえる vol.7・13（メディックメディア）、耳鼻咽喉科疾患ビジュアルブック第 2 版（学研）
留意事項	授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなど、復習に励むこと

令和8年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
解剖学Ⅳ	専任教員	1	1	前期	必修

◇講義概要

神経細胞の電氣的興奮により情報伝達を行っており、神経系の働きや病態を理解するために主な伝導路を把握する必要がある。中枢神経系と末梢神経系の構造、機能についての概要を学習する
--

◇到達目標

1.脳・脊髄の構造や機能、伝導路について正しく理解し説明できるようになる
2.神経細胞の形態と情報伝達について正しく理解し説明できるようになる
3.脳神経・末梢神経・自律神経の構造や機能について正しく理解し説明できるようになる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	神経系の全体像と大脳の構造	講義	齊藤
第2回	神経細胞と神経伝導・伝達のしくみ	講義	齊藤
第3回	大脳皮質の構造と機能について	講義	齊藤
第4回	末梢神経(脳神経・脊髄神経)の構造と機能について II 視神経まで	講義	板橋
第5回	末梢神経(脳神経・脊髄神経)の構造と機能について III 動眼～Ⅻ副	講義	板橋
第6回	脳幹(中脳・橋・延髄)の構造と機能について	講義	板橋
第7回	脊髄の構造について	講義	田尾
第8回	脳脊髄液・脳室について	講義	田尾
第9回	大脳辺縁系および大脳基底核の構造と機能について	講義	田尾
第10回	間脳の構造と機能について	講義	野上
第11回	小脳の構造と機能について	講義	野上
第12回	伝導路(錐体路・錐体外路・体性感覚)について	講義	野上
第13回	脳動脈の構造と灌流について	講義	赤井
第14回	自律神経系の構造と機能について	講義	赤井
第15回	試験	試験	齊藤

評価方法	☒ 定期試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	病気が見える Vol.7 脳・神経 メディックメディア リハに活かす！機能解剖から学ぶ脳画像の読み方 羊土社
参考図書	
留意事項	授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために概要・ポイント等まとめること 小テストなどは復習すること

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床心理学 I	岡崎 良仁	1	1	前期	必修

◇講義概要

様々な心の問題について学び、当事者の気持ちについて考え、どのような心理的援助ができるか考える。
また、臨床心理学の基本的な理論について学ぶ。

◇到達目標

様々な心の問題について理解する。
心の問題を援助する際に必要となる基本的な概念を知る。
心の問題を援助する際の基本的な態度を身につける。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	臨床心理学とは	講義・演習	
第 2 回	こころの問題（１） 問題の分類と概説	講義	
第 3 回	こころの問題（２） 発達障害	講義	
第 4 回	こころの問題（３） 統合失調症	講義	
第 5 回	こころの問題（４） うつ病	講義	
第 6 回	こころの問題（５） 人格障害	講義	
第 7 回	こころの問題（６） 神経症	講義	
第 8 回	こころの問題（７） こころと体の問題	講義	
第 9 回	基礎理論（１） フロイトの精神分析① 人格理論	講義	
第 10 回	基礎理論（２） フロイトの精神分析② 発達理論	講義	
第 11 回	基礎理論（３） 精神分析理論の展開	講義	
第 12 回	基礎理論（４） エリクソソンの発達理論	講義	
第 13 回	基礎理論（５） ロジャーズの来談者中心療法①人格理論	講義	
第 14 回	基礎理論（６） ロジャーズの来談者中心療法②ロールプレイ	講義・演習	
第 15 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 20 %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	心とかかわる臨床心理 第3版 （ナカニシヤ出版）
参考図書	適宜紹介します。
留意事項	演習では班に分かれてグループディスカッションを行います。 授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床心理学Ⅱ	岡崎 良仁	1	1	後期	必修

◇講義概要

人の多種多様な心のあり様に多角的に取り組めるように、様々な心理療法を学ぶ。また、心のあり様を把握するための様々な心理アセスメントに触れ、人の心のあらわれ方への理解を深める。
--

◇到達目標

各心理療法の特徴と違いを概説することができる。 各アセスメントの手続きと解釈について理解する。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	心理療法（1） 遊戯療法	講義	
第 2 回	心理療法（2） 芸術療法	講義	
第 3 回	心理療法（3） 行動療法	講義	
第 4 回	心理療法（4） 認知療法	講義	
第 5 回	心理療法（5） 家族療法・集団心理療法	講義	
第 6 回	心理アセスメント（1） 発達検査	講義	
第 7 回	心理アセスメント（2） 知能検査① WAIS-Ⅳ（知能の定義）	講義・演習	
第 8 回	心理アセスメント（3） 知能検査② WAIS-Ⅳ（下位項目）	講義・演習	
第 9 回	心理アセスメント（4） 類型論と特性論	講義	
第 10 回	心理アセスメント（5） 人格検査（質問紙法）	講義・演習	
第 11 回	心理アセスメント（6） 人格検査（作業検査法）	講義・演習	
第 12 回	心理アセスメント（7） 人格検査（投影法）① 描画法・SCT	講義・演習	
第 13 回	心理アセスメント（8） 人格検査（投影法）② TAT・P-F スタディ・ロールシャッハテスト	講義・演習	
第 14 回	心理アセスメント（9） その他の心理検査	講義・演習	
第 15 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 20 %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	心とかかわる臨床心理 第3版 （ナカニシヤ出版）
参考図書	適宜紹介します。
留意事項	演習ではグループに分かれ、実際の検査に触れながら学びます。 授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
生涯発達心理学 I	田尾 史朗	1	1	前期	必修

◇講義概要

発達を生まれてから死ぬまでの一生における変化として捉え、基本的な発達理論の概要を把握した上で乳幼児期における特徴についての理解を深める。

◇到達目標

臨床における発達の評価に必要なとなる、各発達段階についての特徴・基礎的理論を把握する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	発達とは一生発達心理学概論	講義	
第 2 回	発達の規定要因―遺伝と環境	講義	
第 3 回	発達研究法	講義	
第 4 回	発達理論① 知能・道徳性の発達：ピアジェ、コールバーグ	講義	
第 5 回	発達理論② 人格の発達：フロイト、エリクソン	講義	
第 6 回	発達理論③ 生涯発達：バルテスなど	講義	
第 7 回	胎生期	講義	
第 8 回	乳児期① ～発達段階・運動発達～	講義	
第 9 回	乳児期② ～知覚・認知～	講義	
第 10 回	乳児期③ ～社会性～	講義	
第 11 回	乳児期④ ～愛着～	講義	
第 12 回	幼児期① ～遊び～	講義	
第 13 回	幼児期② ～感情の発達・自己意識の発達～	講義	
第 14 回	総復習	講義	
第 15 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	山田弘幸・飯干紀代子『言語聴覚講座 心理学』医歯薬出版, 2026 年
参考図書	Berk, Laura E. <i>Development through the Lifespan</i> . 7th ed., Pearson, 2022. Siegler RS, Saffran J, Gershoff ET, Eisenberg N, Leaper C. <i>How Children Develop</i> . 7th edition. Macmillan International Higher Education; 2024. 坂上裕子ほか『問いからはじめる発達心理学 改訂版』有斐閣, 2024 年 子安増生ほか『現代心理学辞典』有斐閣, 2021 年
留意事項	予習・復習をすること

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
生涯発達心理学Ⅱ	山岸 直美・岡崎 良仁	1	2	後期	必修

◇講義概要

発達を生まれてから死ぬまでの一生における変化として捉え、基本的な発達理論の概要を把握した上で幼児期～老年期における特徴についての理解を深める。

◇到達目標

各発達段階における特徴を把握し、自分や他者の具体的な姿と関連づけることができる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	幼児期③ ～ことば～	講義	山岸
第 2 回	幼児期④ ～遊び～	講義	山岸
第 3 回	幼児期⑤ ～仲間関係と他者の心の理解～	講義	山岸
第 4 回	児童期① ～発達段階～	講義	山岸
第 5 回	児童期② ～遊び・仲間集団・道徳性の発達～	講義	山岸
第 6 回	まとめと演習（児童期②まで）	講義	山岸
第 7 回	ライフサイクル論	講義	岡崎
第 8 回	青年期① ～心身の変化～	講義	岡崎
第 9 回	青年期② ～家族関係～	講義	岡崎
第 10 回	青年期③ ～友人関係～	講義	岡崎
第 11 回	成人期① ～結婚・子育て～	講義	岡崎
第 12 回	成人期② ～キャリアの発達～	講義	岡崎
第 13 回	成人期③ ～中年期～	講義	岡崎
第 14 回	老年期	講義	岡崎
第 15 回	試験	試験	岡崎

評価方法	☒ 試験 （ 100 %） ☐ 実技試験 （ %） ☐ 演習評価 （ %） ☐ 小テスト （ %） ☐ レポート （ %） ☐ その他 （ %）
------	---

教科書	特になし、プリントを配布。
参考図書	適宜紹介する。
留意事項	授業の最後に、授業内容に関する小テストを実施。 講義後、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
学習・認知心理学	木村 洋太	1	2	前期	必修

◇講義概要

心理学は人について理解する学問である。そのため、私たち人間が日々の生活で行なっている知覚・行動・思考・感情などの全て、またそれらを支える心や身体のメカニズムは全て心理学の領域と言える。本講義では、その切り口の多さ、当たり前すぎて気づくことさえない心理のメカニズムについて、広くその概要を学んでいく。対人理解にとって、また ST にとってなぜ心理学が必要なのか、意識と理解を深める。

◇到達目標

人間そのもの、そして人間の行為を支える心と身体のメカニズムについて、つながりを意識しながら深く理解することができる。具体的には、見る・聞く・感じるという最も根幹の感覚知覚機能、覚える・推論する・問題解決などの高次な認知機能、そして断片的な手がかりから他者を判断してしまう対人認知の癖まで広く理解する。また、人の行動をより望ましい方向に導くために、条件付けを元にする学習理論を日常に応用させながら、人の行動の仕組みを深く考察できることなどを目的とする。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考	担当
第 1 回	オリエンテーション	講義		
第 2 回	記憶の分類	講義	認知心理学	
第 3 回	記銘法（精緻／体制化／生成）と記憶の検査法	講義	認知心理学	
第 4 回	忘却（記憶の変容／偽りの記憶）、感情と記憶	講義	認知心理学	
第 5 回	潜在記憶と健在記憶（プライミングとネットワークモデル）	講義	認知心理学	
第 6 回	古典的条件付け（汎化、消去、実験神経症）	講義	学習心理学	
第 7 回	オペラント条件付け（強化と罰様々な学習、試行錯誤、洞察、弁別）	講義	学習心理学	
第 8 回	オペラント条件付け（強化スケジュール、自己強化）	講義	学習心理学	
第 9 回	社会的学習（模倣、代理強化、社会的学習理論）	講義	学習心理学	
第 10 回	技能学習（高原現象、知覚運動協応、転移）	講義	知覚心理学	
第 11 回	網膜の仕組み（解剖、視細胞の仕組み）	講義	感覚知覚心理学	
第 12 回	感覚の種類と感覚可能範囲、閾値、順応	講義	感覚知覚心理学	
第 13 回	形（2D）の知覚と立体（3D）の知覚	講義	感覚知覚心理学	
第 14 回	運動知覚	講義	知覚心理学	
第 15 回	色知覚	講義	知覚心理学	
第 16 回	問題解決 1（問題空間と思考）	講義	認知心理学	
第 17 回	問題解決 2（解決方略と知識の役割）	講義	認知心理学	
第 18 回	推論（演繹と帰納）	講義	認知心理学	
第 19 回	概念（概念獲得と発達、知識）	講義	認知心理学	

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

第 20 回	空間認知（心的回転、空間地図、整列効果）	講義	認知心理学	
第 21 回	動機付け（内発的動機、外発的動機）	講義	認知心理学	
第 22 回	社会的認知（対人認知、バイアス、ステレオタイプ）	試験	社会心理学	
第 23 回	試験	試験	社会心理学	
評価 方法	■試験（ 80 %） □実技試験（ %） □演習評価（ %） ■小テスト（ 20 %） □レポート（ %） □その他（ %）			

教科書	特になし、プリントを配布する
参考図書	授業中に、適宜紹介する
留意事項	指示のない限り毎授業、授業の最初にこれまでの学習内容について小テストを実施するので、復習しておくこと

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
心理測定法	木村 洋太	1	1	前期	必修

◇講義概要

心理学で扱う様々な心の機能を知るためには、それをどうにかして目に見える形に表わさなければならぬ。そのための様々な技法が心理測定法である。本講義では、測定したい心の内容に合わせて開発された様々な測定法の決まりや特徴を座学として学習する。また、測定した心の機能を客観的なデータ（心の特徴）として提示するために、そのデータのまとめ方や論拠のたて方などを心理統計として学習する。

◇到達目標

心の機能に応じて開発された種々の測定法の原理や特徴を熟知し、それぞれを説明することができる。測定したデータを客観的に分析・解釈するための統計分析の方法を身につける。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	オリエンテーション（心理測定とは、心理統計とは）	講義	
第 2 回	実験計画法（従属変数、独立変数、剰余変数、交絡、参加者計画）	講義	
第 3 回	記述統計その 1（代表値と散布度）	講義	
第 4 回	記述統計その 2（尺度水準）	講義	
第 5 回	2 変数のまとめ方（相関分析の特徴と回帰分析）	講義	
第 6 回	推測統計その 1（母集団、標本、統計的仮説検定の考え方）	講義	
第 7 回	推測統計その 2（様々な分析手法とその選択）	講義	
第 8 回	精神物理学的測定法（調整、極限、恒常、適応法）と信号検出理論	講義	
第 9 回	信頼性と妥当性を見極め	講義	
第 10 回	検査法（項目分析と検査の標準化）	講義	
第 11 回	調査法（質問紙法）の注意点	講義	
第 12 回	単一尺度構成法（直接法と間接法）	講義	
第 13 回	多次元尺度構成法（SD 法と MDS）	講義	
第 14 回	多変量解析	講義	
第 15 回	定期試験	試験	

評価方法	■定期試験（ 80 %） □実技試験（ %） □演習評価（ %） ■小テスト（ 20 %） □レポート（ %） □その他（ %）
------	---

教科書	特になし、プリントを配布する
参考図書	授業中に、適宜紹介する
留意事項	指示のない限り、毎授業、授業の最初にこれまでの学習内容について小テストを実施する

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
言語学 I	板橋 美和	1	1	前期	必修

◇講義概要

・臨床現場で必要とされるコミュニケーション能力を育む。 ・自律した人間になるために必要な考え方や行動を学ぶ。 ・自分も相手も大切にする「肯定的相互尊重」の姿勢とは何かをワークを通じて体験する。
--

◇到達目標

・自己肯定感の高い、心身ともに健康な医療者を目指す。 ・自分を知りメタ認知能力の向上を目指す。
--

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	医療者を目指すあなたへ	講義	板橋
第 2 回	自分を知る	講義	板橋
第 3 回	他者から見た自分	講義	板橋
第 4 回	自分の態度	講義	板橋
第 5 回	人間の心を理解する	講義	板橋
第 6 回	対人コミュニケーション分析	講義	板橋
第 7 回	人間関係の基本「ストローク」	講義	板橋
第 8 回	試験	講義	板橋

評価方法	■試験 (70 %) □実技試験 (%) ■演習評価 (30 %) □小テスト (%) □レポート (%) □その他 (%)
------	--

教科書	PT・OT・STのためのコミュニケーション実践ガイド 第3版 山口美和 / 医学書院
参考図書	
留意事項	

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
言語学Ⅱ	森 若葉	1	1	後期	必修

◇講義概要

言語学の主要分野について、わかりやすい例を用いながら概説を行う。

◇到達目標

言語学の基礎的知識を確実に身につけ、国家試験の言語学分野の問題に対応する力を養う。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	世界の言語と文字－言語の多様性、言語の特性	講義	
第 2 回	音韻論（１）－音素と異音、最小対	講義	
第 3 回	音韻論（２）－相補分布、音変化、過去問	講義	
第 4 回	形態論（１）－形態素、語と接辞	講義	
第 5 回	形態論（２）－異形態、語形成	講義	
第 6 回	形態論（３）－最小対まとめ、過去問	講義	
第 7 回	日本語の特徴（１）－概略、敬語	講義	
第 8 回	日本語の特徴（２）－授受表現・書記体系	講義	
第 9 回	日本語の特徴（３）－まとめ、過去問	講義	
第 10 回	統語論（１）－文法範疇	講義	
第 11 回	統語論（２）－直接構成素分析、過去問	講義	
第 12 回	統語論（３）－統語構造、過去問	講義	
第 13 回	統語論（４）、意味論	講義	
第 14 回	試験・解説	試験・講義	
第 15 回	語用論、社会言語学・復習	講義	

評価方法	■試験（ 85 %） □実技試験（ %） □演習評価（ %） ■小テスト（ 15 %） □レポート（ %） □その他（ %）
------	---

教科書	なし。資料を毎講義時に配布。
参考図書	斎藤 純男『日本語音声学入門』、佐久間 淳一『言語学基本問題集』 研究社
留意事項	予習・復習を行うこと。特に講義後、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和8年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
言語学Ⅲ	専任教員	1	1	後期	必修

◇講義概要

・臨床現場で必要とされるコミュニケーション能力を育む。 ・自律した人間になるために必要な考え方や行動を知る。 ・自分も相手も大切にする「肯定的相互尊重」の姿勢とは何かをワークを通じて体験する。
--

◇到達目標

・自己肯定感の高い、心身ともに健康な医療者を目指す。 ・自分を知りメタ認知能力の向上を目指す。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	コミュニケーションの基本的知識	講義	板橋
第2回	相手を知るための観察のしかた	講義	板橋
第3回	よい聴き手になるための聴きかた	講義	板橋
第4回	伝わる伝えかた	講義	板橋
第5回	自分も相手も大切にしたい伝えかた	講義	板橋
第6回	自己管理①（時間管理と健康管理）	講義	板橋
第7回	自己管理②（感情管理）	講義	板橋
第8回	試験	試験	板橋

評価方法	☒ 試験（100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	PT・OT・STのためのコミュニケーション実践ガイド 第3版 山口美和 / 医学書院
参考図書	
留意事項	・

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
音声学	大和 シゲミ	1	2	前期	必修

◇講義概要

自分や他者の発音を観察することを通じて、発音に関する基礎的な知識と技術を身につける。その知識と技術は、発音上の問題点を適切に把握し、訓練や指導を行っていくための土台となる。

◇到達目標

- (1)自分や他者によって発せられた音声を観察し、その特徴が説明できる
- (2)国際音声記号の表が活用でき、国際音声記号による表記が理解できる
- (3)日本語音声の特徴が説明できる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	(はじめに1) 発音のしくみ	講義・演習	
第 2 回	(// 2) 音声器官と音声記号	講義・演習	
第 3 回	(// 3) 単音の産出と分類	講義・演習	
第 4 回	(小さな単位1) 破裂音・鼻音	講義・演習	
第 5 回	(// 2) ふるえ音・はじき音・摩擦音(前半)	講義・演習	
第 6 回	(// 3) 摩擦音(後半)・接近音	講義・演習	
第 7 回	(// 4) その他の記号・非肺気流の子音	講義・演習	
第 8 回	(// 5) 二重構音・二次的構音・その他	講義・演習	
第 9 回	(// 6) 母音 1ーはじめに	講義・演習	
第 10 回	(// 7) 母音 2ー基本母音	講義・演習	
第 11 回	(// 8) 現代共通日本語の単音 1ー五十音図のかな	講義・演習	
第 12 回	(// 9) 現代共通日本語の単音 2ー撥音・促音など	講義・演習	
第 13 回	(大きな単位 1) 音節とモーラ	講義・演習	
第 14 回	(// 2) アクセント 1ー共通語アクセントの性質	講義・演習	
第 15 回	(// 3) アクセント 2ー共通語アクセントの規則性	講義・演習	
第 16 回	(// 4) イントネーション 1ー意味の限定関係	講義・演習	

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

第 17 回	(// 5) イントネーション 2-フォーカス	講義・演習	
第 18 回	(異なる見方 1) 音素と音素論	講義・演習	
第 19 回	(// 2) 日本語の音素論	講義・演習	
第 20 回	(おわりに) 音声連続、構音観察、総まとめとふりかえり	講義・演習	
第 21 回	試験・解説	試験・講義	
第 22 回	(国家試験過去問演習と解説 1) 分節音	講義・演習	
第 23 回	(国家試験過去問演習と解説 2) 超分節的特徴	講義・演習	

評価方法	☒ 試験 (60 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☒ 小テスト (20 %) ☐ レポート (%) ☒ 小課題 (20 %)
------	--

教科書	斎藤純男著『日本語音声学入門 第 3 版』三省堂
参考図書	授業中に指示する。
留意事項	予習・復習を行うこと。特に講義後、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。また、学習した音声について繰り返し発音する練習をし、自分の中で何が起こっているかを実感できるようになってください。

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
音響学	太田 公子	1	1	前期	必修

◇講義概要

音声の音響的側面の理解に必要な音声理論と音響音声学の基礎を学ぶ。

◇到達目標

音声の音響的特徴を科学的に説明できるようにする。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	音の物理的側面（１）音の発生・音の伝わり方	講義	
第 2 回	音の物理的側面（２）純音・複合音・周波数・位相・振幅・波長・音速	講義	
第 3 回	音の物理的側面（３）周期音と非周期音	講義	
第 4 回	音の物理的側面（４）弦の振動・ドップラー効果	講義	
第 5 回	音の物理的側面（５）デシベル	講義	
第 6 回	音の物理的側面（６）音のレベル	講義	
第 7 回	音の物理的側面（７）スペクトル	講義	
第 8 回	音声生成の音響理論（１）音のきこえ、声が出るしくみ	講義	
第 9 回	音声生成の音響理論（２）音源フィルタ理論	講義	
第 10 回	音声生成の音響理論（３）サウンドスペクトログラム	講義	
第 11 回	音声の分析（１）母音の分析	講義	
第 12 回	音声の分析（２）子音の分析	講義	
第 13 回	総復習	小テスト	
第 14 回	音声の分析（３）様々な音声の分析	演習	
第 15 回	試験・解説	試験・講義	

評価方法	■試験（ 80 %） □実技試験（ %） ■演習評価（ 10 %） ■小テスト（ 10 %） □レポート（ %） □その他（ %）
------	---

教科書	特に指定はありません。授業でプリントを配布します。
参考図書	言語聴覚士の音響学入門 2 訂版 （海文堂）
留意事項	講義後、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなど、復習に力を入れてください。

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
聴覚心理学	田中 里弥	1	1	後期	必修

◇講義概要

物体の振動で発生した「音」は、空気などを伝わり耳に届いた後、聴覚系の機能により大きさ・高さ・音色・音源の位置・音源の数などを知覚することで、総合的な音や音声の認識へとつながる。本講義ではさまざまな音のデモを実際に聞きながら、耳から入った音がそれぞれどのように知覚されるかを学ぶ。

◇到達目標

音波が耳から脳に到達するまでの間に、聴覚器官によってどのような処理が行われているか、物理的な音波の情報が聴覚によってどのような音の情報になるのかを理解する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	音響学と聴覚の復習（音の性質と聴覚経路）	講義	
第 2 回	音の大きさの知覚（ラウドネス，聴力レベル，補充現象等）	講義	
第 3 回	音の高さの知覚（ピッチ、メル尺度、ミッシングファンダメンタル等）	講義	
第 4 回	音色と音声の知覚（ラフネスとシャープネス，フォルマント等）	講義	
第 5 回	両耳聴と音源定位（両耳間時間差・レベル差，聴覚仮想空間等）	講義	
第 6 回	聴覚フィルタとマスキング（臨界帯域，聴覚フィルタ等）	講義	
第 7 回	環境と聴覚・まとめ（聴覚の情景分析、国家試験問題分析等）	講義	
第 8 回	試験・補講（質問への回答、その他のトピックス解説）	試験・講義	

評価方法	■試験（70%） □実技試験（ %） □演習評価（ %） ■小テスト（30%） □レポート（ %） □その他（ %）
------	---

教科書	言語聴覚士のための音響学（医歯薬出版）、プリント配布
参考図書	
留意事項	授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなど、復習に励むこと

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
言語発達学	永安 香	1	1	前期	必修

◇講義概要

定型発達児の言語発達を学ぶ。
言語獲得の仕組み、各年齢における言語の特徴を学ぶ。

◇到達目標

各年齢における言語の特徴を説明できる。
定型発達児の言語発達の道程を説明できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	言語発達の基盤(1)	講義	
第 2 回	言語発達の基盤(2)	講義	
第 3 回	前言語期の発達	講義	
第 4 回	幼児前期の発達	講義	
第 5 回	幼児後期の発達	講義	
第 6 回	学童期の発達・読み書きの発達	講義	
第 7 回	言語発達のまとめ	講義	
第 8 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (100%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	最新言語聴覚学講座 言語発達障害学 (医歯薬出版株式会社) 言語聴覚学療法学テキスト 言語学・言語発達学 (MEDICAL VIEW) 配布プリント
参考図書	
留意事項	予習・復習を行うこと。特に講義後は、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなど、復習に励むこと

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
社会保障・教育・ リハビリテーション	藤原 一秀・野上 尚克	1	1	前期	必修

◇講義概要

- ・言語聴覚士が専門職として活動する基盤となる「言語聴覚士法」を起点とし、対象者の生活を支える社会保障制度と、関連する教育制度の全体像を体系的に学ぶ。
- ・教育/職業/社会/医学的/地域リハビリテーションについて学ぶ。

◇到達目標

- ・言語聴覚士法を正しく理解し、説明できる
- ・社会保障制度の仕組みを臨床に紐づけて解説できる
- ・障害者の権利と支援体制を多角的に把握する
- ・権利擁護とリスク管理を実践できる
- ・教育/職業/社会/医学的/地域リハビリテーションを理解する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	法学の基礎と言語聴覚士法	講義	藤原
第 2 回	社会保障の概要と公的扶助	講義	藤原
第 3 回	医療制度と医療保険	講義	藤原
第 4 回	医療安全と医事法規	講義	藤原
第 5 回	介護保険制度	講義	藤原
第 6 回	年金と労働保険	講義	藤原
第 7 回	障害者福祉の理念と法	講義	藤原
第 8 回	障害者総合支援法	講義	藤原
第 9 回	児童福祉と支援制度	講義	藤原
第 10 回	教育制度と特別支援教育	講義	藤原
第 11 回	社会福祉援助技術	講義	藤原
第 12 回	権利擁護と虐待防止	講義	藤原
第 13 回	個人情報保護	講義	藤原
第 14 回	教育/職業/社会/医学的/地域リハビリテーション	講義	野上
試験			藤原

評価方法	■試験 (100 %) □小テスト (%)	□実技試験 (%) □レポート (%)	□演習評価 (%) □その他 (%)
------	--	---	--

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

教 科 書	講義で資料を配布
参考図書	公衆衛生がみえる (メディックメディア)
留意事項	講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をまとめること。

令和8年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
言語聴覚障害総論Ⅰ（総論Ⅰ）	専任教員・岸田隆之・久保田千代美	1	1	前期	必修

◇講義概要

基礎科目と専門科目の関係性を学ぶ。言語聴覚士の役割を学ぶ。 言語聴覚士として全体的な概念を学ぶ。（歴史・各障害の知識など）
--

◇到達目標

・言語聴覚士の歴史や職務が理解できる ・言語聴覚障害にかかわる基礎が理解できる ・チームを理解する。 ・自己を知り、障害のある方の立場に立って考えることができる

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	言語聴覚士の仕事や歴史を知る	講義	野上
第2回	コミュニケーション過程	講義	板橋
第3回	言語聴覚士の養成過程と国家試験を知る	講義	赤井
第4回	身体のしくみを知る	講義	野上
第5回	耳のしくみと働きを知る	講義	岸田
第6回	音声のしくみと働きを知る	講義	岸田
第7回	折れない心を育てる -いのちの授業-	講義	久保田
第8回	折れない心を育てる -いのちの授業-	講義	久保田
第9回	脳のしくみを知る	講義	齊藤
第10回	筋肉・呼吸を知る	講義	板橋
第11回	チームとは	講義	教員
第12回	チームとは	講義	教員
第13回	言語聴覚療法の評価 -成人-	講義	齊藤
第14回	言語聴覚療法の評価 -小児-	講義・演習	赤井
第15回	試験	試験	野上

評価方法	☒ 試験（100%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	言語聴覚障害総論（建帛社）
参考図書	言語聴覚士テキスト第4版
留意事項	授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
言語聴覚障害学Ⅱ	専任教員・中西信之・橋田 直	1	1	後期	必修

◇講義概要

- ・言語聴覚士の役割や多職種の業務を学び、チームアプローチを理解する。
- ・実習に向けて対人接遇を学ぶ。

◇到達目標

患者様の気持ちや実習における自分の取るべき態度や行動が想像できるようになる。さらに言語聴覚士を目指す者として、適切に行動できるようになる。
AI の基本的な仕組みや特徴を理解し、倫理的配慮を踏まえながら適切に活用するための基礎を学ぶ。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	言語聴覚士の職業倫理とリスクマネジメント	講義	
第 2 回	言語聴覚療法とチームアプローチ 成人 高次脳機能障害①	講義	
第 3 回	言語聴覚療法とチームアプローチ 成人 高次脳機能障害②	講義	
第 4 回	言語聴覚療法とチームアプローチ 成人 摂食嚥下障害①	講義	
第 5 回	言語聴覚療法とチームアプローチ 成人 摂食嚥下障害②	講義	
第 6 回	言語聴覚療法とチームアプローチ 小児①	講義	
第 7 回	言語聴覚療法とチームアプローチ 小児②	講義	
第 8 回	AI リテラシー入門	講義	
第 8 回	レクリエーション技法	講義	
第 9 回	言語聴覚士の研究活動 言語聴覚臨床と研究	講義	
第 10 回	言語聴覚士の研究活動 研究手法	講義	
第 11 回	言語聴覚士の研究活動 文献・統計手法	講義	
第 12 回	言語聴覚士の研究活動 研究報告	講義	
第 13 回	言語聴覚士の研究活動 研究倫理	講義	
第 14 回	言語聴覚士の研究活動の実際	講義	
第 15 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	言語聴覚障害総論（建帛社）、配布資料
参考図書	

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

留意事項	講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。
------	---

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
失語症Ⅰ-1	野上尚克・齊藤里恵	1	1	前期	必修

◇講義概要

言語様式(話す、聴く、読む、書く)や様々な失語症候群の症状、病巣について理解できる。
--

◇到達目標

失語症の症状を理解し、鑑別が可能となる基礎を作る。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	失語症について 大脳と言語野 原因疾患	講義	野上
第 2 回	言語の神経学的基盤 ・ 言語領域の血管支配	講義	野上
第 3 回	失語症の症状理解Ⅰ 言語症状	講義	野上
第 4 回	失語症の症状理解Ⅱ 近縁症状	講義	野上
第 5 回	失語症候群についてⅠ ブローカ失語	講義	齊藤
第 6 回	失語症候群についてⅡ ウェルニッケ失語	講義	齊藤
第 7 回	失語症候群についてⅢ 伝導失語、健忘失語、全失語	講義	齊藤
第 8 回	失語症候群についてⅣ 超皮質性失語	講義	齊藤
第 9 回	失語症候群の復習①(古典的分類)	講義	齊藤
第 10 回	失語症候群についてⅤ 交叉性失語、皮質下性失語	講義	齊藤
第 11 回	失語症候群についてⅥ 純粹型失語①	講義	齊藤
第 12 回	失語症候群についてⅦ 純粹型失語②	講義	齊藤
第 13 回	失語症候群についてⅧ 原発性進行性失語	講義	齊藤
第 14 回	失語症候群の復習②	講義	齊藤
第 15 回	試験	講義	齊藤

評価方法	■試験 (100 %) □実技試験 (%) □演習評価 (%) □小テスト (%) □レポート (%) □その他 (%)
------	--

教科書	失語症学 第 4 版 (医学書院) 失語症言語治療の基礎 (診断と治療社) 病気がみえる⑦ 脳・神経
参考図書	
留意事項	予習・復習を行うこと。特に講義後は、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなど、復習に励むこと

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
失語症 I -2	野上 尚克・齋藤 里恵	1	2	後期	必修

◇講義概要

失語症の定義、症状と症候群、診断・評価、言語訓練について学ぶ。

◇到達目標

・前期の学びを生かし、分析や評価が可能になることを目指す。 ・障害にあった訓練(リハビリテーション)を考える。 ・専門用語を適切に用い言語症状を記録し、サマリーが書けるようになることを目指す。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	失語症の復習	講義	齊藤
第 2 回	情報収集・スクリーニングテスト	講義・演習	齊藤
第 3 回	失語症における鑑別検査や掘り下げ検査の目的・内容の理解。	講義	齊藤
第 4 回	SLTA(標準失語症検査)を理解し実践する(1) 「聞く」	講義・演習	齊藤
第 5 回	SLTA(標準失語症検査)を理解し実践する(2) 「話す」	講義・演習	齊藤
第 6 回	SLTA(標準失語症検査)を理解し実践する(3) 「読む」	講義・演習	齊藤
第 7 回	SLTA(標準失語症検査)を理解し実践する(4) 「書く」「計算」	講義・演習	齊藤
第 8 回	認知神経心理学モデルを知り解釈する(1)	講義	野上
第 9 回	認知神経心理学モデルを知り解釈する(2)	講義	野上
第 10 回	認知神経心理学モデルを知り解釈する(3)	講義	野上
第 11 回	認知神経心理学モデルを知り解釈する(4)	講義	野上
第 12 回	SLTA の分析(1) 項目ごとに解釈する	講義	齊藤
第 13 回	SLTA の分析(2) 項目間を比較し解釈する	講義	齊藤
第 14 回	評価をまとめサマリーを作成する	講義	齊藤
第 15 回	試験	講義	齊藤

評価方法	☒ 試 験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	・失語症学 第 3 版 (医学書院) ・失語症言語治療の基礎 (診断と治療者) ・標準失語症検査マニュアル第 2 版 (新興医学出版) ・なるほど失語症の評価と基礎 (金原出版)
参考図書	
留意事項	授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなど、復習に励むこと

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
高次脳機能障害学Ⅰ	野上尚克、板橋美和	1	1	前期	必修

◇講義概要

・高次脳機能障害を学び、各疾患の理解を深め言語聴覚士に必要な基礎知識を得る。
--

◇到達目標

・背景症状と高次脳機能障害が鑑別できる。 ・各検査の目的を理解し、適切な検査が選択できる。
--

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	高次脳機能障害とは	講義	野上
第 2 回	神経心理学的な考え方と言語聴覚士の役割	講義	野上
第 3 回	行為・動作の障害Ⅰ：古典的な失行と関連障害のとらえ方	講義	野上
第 4 回	行為・動作の障害Ⅱ：標準高次動作性検査	講義	野上
第 5 回	失認Ⅰ：各感覚系の認知障害（視覚・聴覚・触覚）の原因疾患、病巣、症状、訓練	講義	板橋
第 6 回	失認Ⅱ：その他の認知障害（相貌・身体・病態）の原因疾患、病巣、症状、訓練	講義	板橋
第 7 回	失認Ⅲ：標準高次視知覚検査（V P T A）	講義	板橋
第 8 回	失認Ⅳ：標準高次視知覚検査（V P T A）	講義	板橋
第 9 回	前頭葉症状Ⅰ 主要な高次脳機能障害	講義	野上
第 10 回	検査：CAT、CAS	講義	野上
第 11 回	前頭葉症状Ⅱ 遂行機能障害の病巣、症状、訓練	講義	野上
第 12 回	検査：FAB、BADS	講義	野上
第 13 回	前頭葉症状Ⅲ 行為・行動障害（本能性把握、道具の使用障害、人格・情動障害） 原因疾患、症状	講義	野上
第 14 回	前頭葉症状Ⅳ 評価とリハビリテーション	講義	野上
第 15 回	試験	講義	野上

評価方法	☒ 定期試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第4版 医学書院
参考図書	高次脳機能障害学 第3版 医歯薬出版株式会社
留意事項	予習復習を行うこと。特に講義後は、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなど、復習に励むこと。

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
高次脳機能障害学Ⅱ	板橋美和・野上尚克・田尾史朗・齊藤里恵	1	2	後期	必修

◇講義概要

神経心理学のリハビリテーション、様々な神経心理症状の特徴と鑑別診断、治療等について学ぶ。

◇到達目標

高次脳機能障害の病態を知り鑑別が可能になる。
各種神経心理検査の目的を理解し、適切な検査の選択や評価が可能になることを目指す。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	記憶障害Ⅰ 記憶の過程、分類（神経学的・心理学的）を知る。	講義	板橋
第 2 回	検査：三宅式記銘力検査、ベントン視覚記銘検査、 Rey 複雑付図形	講義・演習	板橋
第 3 回	記憶障害Ⅱ 原因疾患、病巣、症状 （健忘：前向性・逆行性、一過性全健忘、作話など）を知る。	講義	板橋
第 4 回	検査：WMSR、リバーミッド行動記憶検査	講義・演習	板橋
第 5 回	視空間認知障害（半側空間無視とその検査）：原因仮説、原因疾患、病巣、 症状、訓練	講義・演習	野上
第 6 回	視空間認知障害（構成障害、地誌的見当識障害など）： 原因仮説、原因疾患、病巣、症状、訓練	講義	野上
第 7 回	半球離断症候群の機序、症状の理解	講義	齊藤
第 8 回	認知症の基本概念	講義	板橋
第 9 回	認知症の分類	講義	板橋
第 10 回	認知症の評価 HDS-R、MMSE、MoCA-J、ADAS CDR、MN スケール、N-ADL など	講義・演習	板橋
第 11 回	知能をはかり考える RCPM、コース立方体組み合わせテスト	講義・演習	齊藤
第 12 回	脳外傷による高次脳機能障害	講義	齊藤
第 13 回	認知コミュニケーション障害（脳外傷・右半球損傷）	講義	田尾
第 14 回	認知コミュニケーション障害（認知症・ALS・パーキンソン病）	講義	田尾
第 15 回	試験	試験	板橋

評価方法	☒ 試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	標準高次脳機能障害学 第 3 版 医学書院 高次脳機能障害学 第 3 版 医歯薬出版 石合純夫
参考図書	病気がみえる⑦ 脳・神経 第 2 版 メディック・メディア

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

留意事項	授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなど、復習に励むこと
------	--

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
言語発達障害 I	田尾史朗・池田沙弥香	1	1	前期	必修

◇講義概要

- ・言語発達障害の医学的背景の概略を理解する
- ・言語発達障害の情報収集・評価・訓練の一般的知識を理解する
- ・自閉症スペクトラム症の子どもたちの基本的特徴・評価・訓練の基本的理解を目指す。

◇到達目標

- ・言語発達障害の医学的背景の概略を理解し、説明できる
- ・言語発達障害の情報収集・評価・訓練の一般的知識を理解し説明できる。
- ・自閉症スペクトラム症の定義・特徴・評価法・指導法を理解でき説明できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	言語発達障害学とは何か（体験・概論）	講義	田尾
第 2 回	言語発達学（概論：乳幼児期）	講義	田尾
第 3 回	言語発達学（概論：学童期）	講義	田尾
第 4 回	言語発達障害の医学的背景（DSM/ICD・遺伝・脳）	講義	田尾
第 5 回	情報収集・評価 概論（カルテ・面接・観察・検査）	講義	田尾
第 6 回	動物療法 前編	講義/演習	池田
第 7 回	動物療法 後編	講義/演習	池田
第 8 回	指導・訓練 概論（発達論的アプローチ/行動論的アプローチ, TEACCH など）	講義	田尾
第 9 回	指導・訓練 概論（INREAL マクロ分析・ミクロ分析）	講義	田尾
第 10 回	自閉症スペクトラム障害 概論（症状・歴史・定義）	講義	田尾
第 11 回	自閉症スペクトラム障害 評価・検査	講義	田尾
第 12 回	自閉症スペクトラム障害 乳～幼児期	講義	田尾
第 13 回	自閉症スペクトラム障害 学童期～青年期	講義	田尾
第 14 回	総復習（言語発達障害概論・自閉症スペクトラム障害など）	講義	田尾
第 15 回	試験	試験	田尾

評価方法	☒ 試験（ 100%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ ）
------	---

教科書	石坂郁代・水戸陽子編著『言語発達障害学』医歯薬出版、2023 年、 及び配布プリント 副読本： 岩田一成・岩崎淳也『言語学・言語発達障害学』メジカルビュー社、2022 年
参考図書	＜言語発達障害全体＞ ・Rhea Paul, Courtenay Norbury, Carolyn Gosse, <i>Language Disorders 6thed</i> , Elsevier, 2025 ・Carolyn Letts, <i>An introduction to child language</i> , Routledge Taylor& Francis, 2025 ・本田秀夫『学校の中の発達障害』SB クリエティブ、2022 年 ・岩波明他『おとなの発達障害 診断・治療・支援の最前線』光文社、2020 年 ・竹田契一監修『インリアルアプローチ事典』薫化舎出版界、2025 年

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

	<自閉症スペクトラム全体> ・ Patricia A. Prelock, Rebecca J. McCauley, <i>Treatment of Autism Spectrum Disorder 2ed</i>, Brookes, 2021 ・ ローナ・ウィング著, 久保絃章ら訳『自閉症スペクトル』東京書籍, 1998 年 ・ フランシス・ハッペ著, 石坂好樹他訳『自閉症の心の世界: 認知心理学からのアプローチ』星和書店, 1997 年 ・ 本田秀夫『はじめて学ぶ自閉スペクトラム症』金剛出版, 2025 年 <アスペルガー関連> ・ ウタ・フリス著, 富田真紀訳『自閉症とアスペルガー症候群』東京書籍, 1996 年 ・ トニー・ウッド著, 富田真紀他訳『アスペルガー症候群』東京書籍, 1999 年 <自閉症スペクトラムの感覚> ・ 熊谷高幸『自閉症と感覚過敏』新曜社, 2017 年 <自閉症スペクトラムの言語> ・ 松本敏治『自閉症は津軽弁を話さない』福村出版, 2017 年 <入門 親子相談用> ・ 榊原洋一『自閉症スペクトラムの子どもたちをサポートする本』ナツメ社, 2017 年 ・ 本田秀夫『自閉症スペクトラムがよくわかる本』講談社健康ライブラリー, 2015 年, ・ 佐々木正美監修『自閉症のすべてがわかる本』講談社健康ライブラリー, 2006 年 <当事者> ・ 東田直樹『自閉症の僕が跳びはねる理由』角川つばさ文庫, 2017 年 ・ グニラ・ガーランド著, 熊谷高幸監訳, 石井バークマン麻子訳『自閉症者が語る人間関係と性』東京書籍, 2007 年 他適宜使用
留意事項	・ 予習・復習をすること (授業で指定あり) ・ 動物療法の時間の内容は試験範囲外

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
言語発達障害Ⅱ	田尾史朗・前川祥・小濱正芳・薮下佑紀	1	1	後期	必修

◇講義概要

- ・注意欠如・多動症の障害像と支援について学ぶ。
- ・通所施設、就労、地域、といった各方面における S T の役割を学ぶ。

◇到達目標

- ・注意欠如・多動性症の定義、特徴、支援方法について理解し、説明できる。
- ・医療・福祉等各方面においての S T の役割や支援について述べることができる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
1	ADHD 概論（一般的特徴の把握、体験）	講義	田尾
2	ADHD の病態：診断基準と原因（遺伝、脳、アルコール）	講義	田尾
3	ADHD の評価：他疾患との鑑別（行動・エピソードから読み解く能力）	講義	田尾
4	ADHD の支援：基本方針と訓練の三原則（薬物・行動療法・環境調整）	講義	田尾
5	ADHD の支援・訓練（ABA、SST、ペアレントトレーニング）	講義・演習	田尾
6	ADHD の支援：乳幼児期	講義	田尾
7	ADHD の支援：学童期から青年期	講義	田尾
8	インテークの実際	講義	前川
9	障害児通所施設における ST の役割	講義	前川
10	地域の取り組みと ST の役割・支援事業の概要	講義	小濱
11	地域の取り組みと ST の役割・保護者のニーズと対応	講義	小濱
12	症例検討	講義・演習	薮下
13	症例解釈	講義・演習	薮下
14	総復習	講義	田尾
15	試験	試験	田尾

評価方法	☒ 試験（100%） ☐ 実技試験（%） ☐ 演習評価（%） ☒ 小テスト（%） ☐ レポート（%） ☐ その他（%）
------	---

教科書	『言語発達障害学』医歯薬出版，2023 年 および 配布プリント
参考図書	<ADHD関連> ・斎藤万比古・飯田順三『注意欠如・多動症—ADHD—の診断・治療ガイドライン 第5版』じほう社，2022 年 ・マッシュスミス著，石坂好樹他訳『ハイパーアクティブ：ADHDの歴史はどう動いたか』星和書店，2017 年 ・ラッセル・A・バークレー著，海輪由香子訳『ADHDのすべて』株式会社ヴォイス，2000 年（原著 1995 年出版） ・Russell. A. Barkley, <i>Taking Charge of ADHD 4th ed</i>, The Guilford Press, 2020 ・Russell. A. Barkley, <i>Executive Functions: What they are, how they work, and why they evolved</i>, The Guilford Press, 2012, 他、適宜紹介
留意事項	予習・復習を行うこと。講師の都合により順番は変更することがあります。

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
言語発達障害Ⅲ	赤井美貴子・川上有未・草間由実子	1	1	後期	必修

◇講義概要

- ・小児のアセスメントに必要な検査について、講義と演習を併用して学び、ST として評価、訓練をどのようにして行うかについて、知識や理解の向上を目指す。

◇到達目標

- ・評価、診断の手順を説明できる。
- ・収集する情報（面接、検査）の種類、目的、方法について説明できる。
- ・支援方法について理解でき説明できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
1	言語発達障害とは（制度・アセスメント概要）	講義	赤井
2	検査（PVT—R、SCTAW、質問応答関係検査）	講義	赤井
3	検査（新版 K 式・遠城寺式、津守） 検査説明・練習	講義	赤井
4	検査（新版 K 式） 解釈	講義・演習	赤井
5	検査（WISC—IV WISC—V WIPPSI—III） 検査説明・練習	講義	赤井
6	検査（WISC—IV WISC—V WIPPSI—III） 解釈	講義・演習	赤井
7	検査 S—S 法	講義・演習	草間
8	検査（K-ABC・DN-CAS） 検査説明・練習	講義	赤井
9	検査（URAWSS、STRAW—R、CARD）	講義	赤井
10	検査（LC—R、LC SA）	講義	赤井
11	症例検討	講義・演習	川上
12	症例解釈	講義・演習	川上
13	症例検討	講義・演習	川上
14	症例解釈	講義・演習	川上
15	試験	試験	赤井

講義・演習

評価方法	☒ 試験（ 80%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ 20%）
	☒ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）

教科書	『言語発達障害学 第4版』医学書院 2026 年 および 配布プリント
参考図書	予習・復習を行うこと。講師の都合により順番は変更することがあります。
留意事項	

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
発声発語障害 I	赤井美貴子	1	1	後期	必修

◇講義概要

機能性構音障害について、講義と演習を併用して学び、ST として評価、訓練をどのようにして行うかについて、知識や理解の向上を目指す。

◇到達目標

- ・ 定型の構音発達を説明することができる。
- ・ 機能性構音障害とその他の構音障害の違いを説明することができる。
- ・ 検査内容を理解し、問題点をあげ、訓練目標・内容を立案することができる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	構音の仕組み	講義	
第 2 回	日本語の語音と音声表記	講義	
第 3 回	構音の発達	講義	
第 4 回	構音障害の定義、臨床の流れ	講義	
第 5 回	構音検査	講義	
第 6 回	評価（誤り音の種類）	講義	
第 7 回	評価（異常構音）	講義	
第 8 回	構音検査のまとめ、構音検査以外の検査	講義	
第 9 回	構音訓練の概要	講義	
第 10 回	構音訓練の進め方、家族指導	講義	
第 11 回	構音訓練の実際	講義	
第 12 回	構音検査の練習	演習・講義	
第 13 回	事例による演習（音声の聞き取り、評価）	演習・講義	
第 14 回	事例による演習（まとめ）、総復習	演習・講義	
第 15 回	試験、総まとめ	試験	

評価方法	■試験（ 80%） □実技試験（ %） ■演習評価（ 10%） □小テスト（ %） □レポート（ %） ■その他（構音絵カード 10%）
------	--

教科書	標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第4版（医学書院）
参考図書	改訂 機能性構音障害（建帛社） 特別支援教育における 構音障害のある子どもの理解と支援（学苑社）
留意事項	授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
発声発語障害Ⅱ	鷺見 麻里・橋田 直	1	1	後期	必修

◇講義概要

口蓋裂の言語臨床に必要な発声発語器官の障害について系統的に学ぶ。
 出生から治療終了までの各時期の言語管理について学ぶ。
 口腔・中咽頭癌術後の構音障害について学習する。序論では口腔・咽頭の解剖学の復習を行う。その後、舌口腔癌の治療法やリハビリテーション技術について座学での学習・演習を行い、当分野を体系的に理解していく。

◇到達目標

1.発話明瞭度の検査から再建術と機能回復、舌の切除型と言語成績、構音位置・方法などの構音成績を分析・考察できる。2.口腔・中咽頭癌切除後の構音障害に対して補綴的発話補助装置の適応・訓練方法などを提案できる。3.評価や訓練後の担当医への報告ができる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	イントロダクション、解剖 口蓋裂の分類	講義	
第 2 回	類似疾患、鼻咽腔閉鎖機能	講義	
第 3 回	構音障害、異常構音	講義	
第 4 回	鼻咽腔閉鎖機能・構音障害の評価と治療	講義	
第 5 回	口蓋裂治療の流れ	講義	
第 6 回	口蓋裂言語検査	講義	
第 7 回	口腔・中咽頭癌のリハビリテーション概論、がんについて	講義	
第 8 回	口腔・顎・咽頭の形態と構造、口腔と言語機能	講義	
第 9 回	軟組織・顎に発生する悪性腫瘍、口腔・中咽頭癌の手術	講義	
第 10 回	器質性構音障害の評価 構音検査と分析	講義	
第 11 回	器質性構音障害の訓練	講義	
第 12 回	器質性構音障害に関わる摂食・嚥下障害	講義	
第 13 回	補綴と機能回復・咀嚼障害・口腔ケア	講義	
第 14 回	症例検討：発話明瞭度の分析、訓練目標の設定、訓練方法の検討、チームアプローチ	講義	
第 15 回	試験	試験・講義	

評価方法	■試 験 (100 %) □実技試験 (%) □演習評価 (%) □小テスト (%) □レポート (%) □その他 (%)
------	---

教科書	言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学―器質性構音障害― 医歯薬出版株式会社 標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第3版 医学書院
参考図書	口腔・中咽頭がんのリハビリテーション＊構音障害,摂食・嚥下障害＊ 医歯薬出版株式会社

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

留 意 事 項	本講義は器質性構音障害ですが、解剖学や音声学、摂食嚥下障害など様々な他の内容とオーバーラップします。解剖学や音声学など不安なところがあれば復習しておきましょう。
---------	--

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
摂食嚥下障害 I	板橋 美和・田尾 史朗・齊藤 里恵	1	1	前期	必修

◇講義概要

・食べる事の重要性を認識し、正常な摂食嚥下機能を学ぶ。 ・摂食嚥下障害の分類や合併症を学ぶ。

◇到達目標

・正常な摂食嚥下のメカニズムを説明できる。 ・摂食嚥下障害の定義や概念について説明できる。 ・嚥下モデルの種類と特徴について説明できる。 ・嚥下に関する筋と神経について説明できる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	総論 摂食嚥下とその障害 口から食べることの意味を考える	講義	板橋
第 2 回	正常な嚥下のメカニズム ① 5 期モデルとプロセスモデル 先行期～口腔期	講義	板橋
第 3 回	正常な嚥下のメカニズム ② 5 期モデルとプロセスモデル 咽頭期～食道期	講義	板橋
第 4 回	摂食嚥下の解剖 ① 鼻腔・口腔・舌	講義	板橋
第 5 回	摂食嚥下の解剖 ② 喉頭・咽頭・食道	講義	板橋
第 6 回	嚥下に関する筋 顔面筋、咀嚼筋、舌筋、口蓋筋	講義	板橋
第 7 回	嚥下に関する筋 舌骨上筋、舌骨下筋、内喉頭筋	講義	板橋
第 8 回	嚥下に関する筋 国試問題 嚥下運動における筋活動	講義	板橋
第 9 回	嚥下に関する神経機構	講義	板橋
第 10 回	誤嚥と呼吸器疾患について	講義	齊藤
第 11 回	摂食嚥下障害の原因 ①加齢と嚥下機能の関係	講義	齊藤
第 12 回	摂食嚥下障害の原因 ②運動障害に伴う摂食嚥下障害	講義	板橋
第 13 回	摂食嚥下機能の発達と成熟	講義	田尾
第 14 回	摂食嚥下障害の原因 ④小児の摂食嚥下障害	講義	田尾
第 15 回	試験	試験	板橋

評価方法	☒ 試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	脳卒中の摂食嚥下障害 第 3 版 藤島一郎 著/医歯薬出版株式会社 標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学 第 3 版 藤田郁代 監修/医学書院
参考図	嚥下障害ポケットマニュアル 第 4 版 聖隷嚥下チーム/医歯薬出版株式会社

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

書	動画でわかる摂食・嚥下リハビリテーション 藤島一郎 監修／ 中山書店 病気がみえる 7 脳・神経 第 2 版 /メディックメディア
留 意 事 項	・授業で使用する教科書とプリントを中心に予習と復習を行って下さい。 ・わからないところはそのままにせず、質問をするなどして積極的に解決していきましょう。 ・自分の食べている状態を観察し正常な摂食嚥下を分析してください。正常を知ることが異常に気付くための第一歩です。 ・摂食嚥下や発声発語に関わる筋と神経は共通しています。言語聴覚士として大事な所なのでしっかり覚えましょう。

摂食嚥下障害の原因 ③悪性腫瘍・その他に伴う摂食嚥下障害 講義 板橋

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
摂食嚥下障害Ⅱ	板橋 美和・野上 尚克 小向井 英紀・奥本 聡美	1	1	後期	必修

◇講義概要

- ・嚥下障害Ⅰで学んだ基礎をふまえ、摂食嚥下障害のアセスメントや訓練法について学ぶ。
- ・演習を通じて実践的な技術を学ぶ。
- ・リスク管理のための必要な知識を学ぶ。

◇到達目標

- ・摂食嚥下のスクリーニング評価が出来る。
- ・訓練計画を立てることが出来る。
- ・学んだことを実習で活かすことができる。
- ・国家試験の過去問題を解くことが出来る。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	基礎の復習(正常嚥下の仕組み)と 誤嚥の種類	講義	板橋
第 2 回	摂食嚥下障害の総合評価と評価スケール①(情報収集、質問紙、スクリーニング検査)	講義	板橋
第 3 回	評価の実践	演習	板橋
第 4 回	摂食嚥下障害の総合評価と評価スケール②(VF と VE)	講義	野上
第 5 回	その他の検査法と検査のまとめ	講義	板橋
第 6 回	情報の統合 臨床推論と介入計画の立案	講義	板橋
第 7 回	治療と訓練1(概要と間接訓練)	講義	板橋
第 8 回	治療と訓練2(直接訓練)	講義	板橋
第 9 回	治療と訓練3(脳血管障害)	講義	板橋
第 10 回	治療と訓練4(神経筋疾患)	講義	板橋
第 11 回	治療と訓練5(その他の訓練・外科的治療・薬物治療)	講義	板橋
第 12 回	摂食嚥下障害の合併症について	講義	板橋
第 13 回	口腔ケアの必要性和方法 ※ケーシー着用	講義	小向井英紀 奥本聡美
第 14 回	口腔ケアの必要性和方法の実際 ※ケーシー着用	演習	小向井英紀 奥本聡美

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

第 15 回	試験	試験	板橋
--------	----	----	----

評価方法	☒ 試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	脳卒中の摂食嚥下障害 第3版 藤島一郎 著／ 医歯薬出版株式会社 標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学 第3版 藤田郁代 監修／医学書院
参考図書	動画でわかる摂食・嚥下リハビリテーション 藤島一郎 監修 ／ 中山書店 嚥下障害ポケットマニュアル 第4版 聖隷嚥下チーム ／ 医歯薬出版株式会社 病気がみえる7脳・神経 第2版 ／ メディックメディア
留意事項	・授業で使用する教科書とプリントを中心に予習と復習を行って下さい。 ・わからないところはそのままにせず、質問をするなどして積極的に解決していきましょう。 ・ケーシーを着用する際は実習靴に履き替えてください。

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
小児聴覚障害 I	川江 清子	1	1	後期	必修

◇講義概要

小児聴覚障害について、実際の子どもの様子を学びながら、その特性を理解し、支援方法の基礎を身につける。

◇到達目標

1. 小児聴覚障害の各発達段階の特徴と支援方法について概説できる。
2. コミュニケーションモードの特徴を理解し、基礎的な技術の素養を身につける。
3. いろいろな事例への取り組みを通して、子ども理解の基礎的な態度を身につける。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	聴覚障害の分類とその影響	講義	
第 2 回	聴覚の発達、早期発見・新スク	講義	
第 3 回	歴史と現状、言語指導観の変化	講義	
第 4 回	コミュニケーションモードと教育方法	講義	
第 5 回	【小テスト】、小児難聴のハビリテーションの概要	講義	
第 6 回	小児の評価(インテーク、観察、発達の評価)	講義	
第 7 回	小児の評価(発達の評価)	講義	
第 8 回	小児の訓練(前言語期)	講義	
第 9 回	小児の訓練(単語獲得期、2～3語文期)	講義	
第 10 回	小児の訓練(多語文期)	講義	
第 11 回	小児の訓練(文章完成期)	講義	
第 12 回	小児の訓練(言語指導のまとめ)	講義	
第 13 回	小児の訓練(聴覚の活用)	講義	
第 14 回	まとめ	講義	
第 15 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (80%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (20%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	聴覚障害学第3版. 城間将江・鈴木恵子・小淵千絵編 医学書院. 2021 年
参考図書	
留意事項	授業で示された課題について、自分で考え、グループで討議し、言語でまとめて表現するということを大切にしてください。

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
成人聴覚障害 I	矢吹 裕栄	1	1	後期	必修

◇講義概要

聴覚障害の理解に必要な聴こえのシステムの基礎をしっかりと把握する。主要な聴覚検査の概要を理解する。難聴や聴覚障害者とのコミュニケーション方略を体験する。聴覚検査の結果から、どのような支援が可能かを考える。

◇到達目標

1. 聴こえのシステムのしっかりと理解しイメージを把握する。
2. 検査結果から問題点を考えどのような支援が出来るか考える事が出来る。
3. 解剖・機能、検査、疾患の関連を正しく把握し、国家試験に必要な基礎力を養う。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	音とは何か、聴こえとは、基本用語の確認	講義	
第 2 回	聴覚器の解剖と機能 伝音系	講義	
第 3 回	聴覚器の解剖と機能 感音系	講義	
第 4 回	難聴のタイプ分類と関連疾患	講義	
第 5 回	聞こえない事による困難 聞こえない事で生じる日常生活上の困難	演習・講義	
第 6 回	難聴者とのコミュニケーション方略、クリアスピーチ	演習・講義	
第 7 回	聴力検査法 1 純音聴力検査	演習・講義	
第 8 回	聴力検査法 2 自記オーディオメトリー	講義	
第 9 回	聴力検査法 3 語音聴力検査と聴力検査結果の実例	講義	
第 10 回	聴覚検査法 4 その他の聴覚検査	講義	
第 11 回	成人の聴覚障害の評価、成人聴覚障害者への支援	講義	
第 12 回	補聴器と人工内耳による聴覚補償について	講義	
第 13 回	成人聴覚障害の事例	講義	
第 14 回	聴覚器と検査結果と疾患の関連の確認（まとめ）	演習・講義	
第 15 回	試験（60 分）・総括（30 分）	試験・講義	

評価方法	☒ 試験（100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学第 3 版（医学書院） 他に必要な資料はプリントで配布する。
参考図書	適宜紹介する。
留意事項	予習・復習を行うこと。特に講義後は、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなど、復習に励むこと

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
成人聴覚障害Ⅱ	川江 清子	1	1	後期	必修

◇講義概要

- ・成人の聴覚機能の診断に必要な各種聴覚機能検査（純音聴力検査、語音聴力検査、内耳機能検査、他覚的聴力検査など）の原理と方法について学ぶ。

◇到達目標

1. 成人に対する各種聴覚機能検査の原理、実施手続き、分析方法について理解できる。
2. 実技演習をとおして検査・診断の技能を身につけ、模擬的に実施できる。
3. 聴覚検査の結果を分析し、聴覚障害症状との関連性について考察できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	聴覚機能検査について、気導聴力検査	講義	
第 2 回	骨導聴力検査、自記オーディオメトリー	講義	
第 3 回	マスキング（気導、骨導）	講義	
第 4 回	内耳機能検査	講義	
第 5 回	語音了解閾値検査、語音弁別検査、マスキング	講義	
第 6 回	インピーダンス・オーディオメトリー、アブミ骨筋反射	講義	
第 7 回	純音聴力検査、語音聴力検査、インピーダンス、アブミ骨筋反射	演習	
第 8 回	純音聴力検査、語音聴力検査、インピーダンス、アブミ骨筋反射	演習	
第 9 回	純音聴力検査、語音聴力検査、インピーダンス、アブミ骨筋反射	演習	
第 10 回	〔小テスト〕、聴性誘発反応（蝸電図、ABR）	講義	
第 11 回	聴性誘発反応（ASSR）、耳音響放射（OAE）	講義	
第 12 回	機能性難聴の検査、耳鳴検査	講義	
第 13 回	耳管機能検査、平行機能検査	講義	
第 14 回	まとめ	講義	
第 15 回	試験	試験	

評価方法	■試験（ 80 %） □実技試験（ %） □演習評価（ %） ■小テスト（ 20 %） □レポート（ %） □その他（ %）
------	---

教科書	聴覚検査の実際 改訂 5 版（南山堂）
参考図書	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学第 3 版（医学書院）
留意事項	予習・復習を行うこと。特に講義後、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなど復習に努めること。

(別表3-①)

言語聴覚学科 教育課程 (令和7年度以前入学の方)

1 専門基礎分野

科目	第1年次		第2年次		時間数	単位数	備考
	前期	後期	前期	後期			
基礎医学							
医学総論	30				30	2	
解剖学Ⅰ	30				30	2	
生理学		30			30	2	
病理学		30			30	2	
小計	60	60	0	0	120	8	
臨床医学							
内科学		30			30	2	
小児科学		30			30	2	
精神医学		30			30	2	
リハビリテーション医学			30		30	2	
耳鼻咽喉科学	30				30	2	
臨床神経学Ⅰ		30			30	2	
臨床神経学Ⅱ			30		30	2	
形成外科学		15			15	1	
小計	30	135	60	0	225	15	
臨床歯科医学							
臨床歯科医学	30				30	2	
小計	30	0	0	0	30	2	
音声・言語・聴覚医学							
解剖学Ⅱ	30				30	2	
解剖学Ⅲ	30				30	2	
解剖学Ⅳ	30				30	2	
小計	90	0	0	0	90	6	
心理学							
臨床心理学Ⅰ	30				30	2	
臨床心理学Ⅱ		30			30	2	
生涯発達心理学Ⅰ	30				30	2	
生涯発達心理学Ⅱ		30			30	2	
学習・認知心理学	45				45	3	
心理測定法	30				30	2	
小計	135	60	0	0	195	13	
言語学							
言語学		30			30	2	
小計	0	30	0	0	30	2	
音声学							
音声学	45				45	3	
小計	45	0	0	0	45	3	
音響学							
音響学	30				30	2	
聴覚心理学		15			15	1	
小計	30	15	0	0	45	3	
言語発達学							
言語発達学	15				15	1	
小計	15	0	0	0	15	1	
社会福祉・教育							
社会保障制度	15				15	1	
リハビリテーション概論	15				15	1	
医療福祉教育・関係法規	15				15	1	
小計	45	0	0	0	45	3	
専門基礎分野合計	480	300	60	0	840	56	

2 専門分野

科目	第1年次		第2年次		時間数	単位数	備考
	前期	後期	前期	後期			
言語聴覚障害学総論							
言語聴覚障害概論Ⅰ	30				30	2	
言語聴覚障害概論Ⅱ		30			30	2	
言語聴覚障害診断学Ⅰ			30		30	2	
言語聴覚障害診断学Ⅱ			30		30	2	
小計	30	30	60	0	120	8	
失語・高次脳機能障害学							
失語症Ⅰ-1	30				30	2	
失語症Ⅰ-2		30			30	2	
失語症Ⅱ			60		60	4	
高次脳機能障害学Ⅰ	30				30	2	
高次脳機能障害学Ⅱ		30			30	2	
小計	60	60	60	0	180	12	
言語発達障害学							
言語発達障害Ⅰ-1	30				30	2	
言語発達障害Ⅰ-2		60			60	4	
言語発達障害Ⅱ			30		30	2	
言語発達障害Ⅲ			30		30	2	
言語発達障害Ⅳ		30			30	2	
小計	30	90	60	0	180	12	
発声発語・嚥下障害学							
音声障害			30		30	2	
構音障害Ⅰ		30			30	2	
構音障害Ⅱ			30		30	2	
構音障害Ⅲ		30			30	2	
構音障害Ⅳ			30		30	2	
嚥下障害Ⅰ	30				30	2	
嚥下障害Ⅱ			45		45	3	
吃音			30		30	2	
小計	30	60	165	0	255	17	
聴覚障害学							
小児聴覚障害Ⅰ		30			30	2	
小児聴覚障害Ⅱ			30		30	2	
小児聴覚障害Ⅲ			30		30	2	
成人聴覚障害Ⅰ		30			30	2	
成人聴覚障害Ⅱ		30			30	2	
成人聴覚障害Ⅲ			15		15	1	
補聴器・人工内耳			30		30	2	
視覚・聴覚二重障害			15		15	1	
小計	0	90	120	0	210	14	
臨床実習							
臨床実習Ⅰ		40			40	1	
臨床実習Ⅱ				160	160	4	
臨床実習Ⅲ				320	320	8	
小計	0	40		480	520	13	
専門分野合計(臨床実習を除く)	150	330	465	0	945	63	
専門分野合計	150	370	465	480	1465	76	
総計	630	670	525	480	2305	132	
年次合計	1300		1005		2305	132	

3 選択科目

科目	第1年次		第2年次		時間数	単位数	備考
	前期	後期	前期	後期			
レクリエーション活動援助法							
レクリエーション活動援助法Ⅰ	30				30	1	
レクリエーション活動援助法Ⅱ		30			30	1	
レクリエーション活動援助法Ⅲ			30		30	1	
小計	30	30	30	0	90	3	

*講義及び演習は15時間を1単位、臨床実習は40時間を1単位とする。

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
リハビリテーション医学	中川 正秀	2	2	前期	必修

◇講義概要

リハビリテーションおよび医療の概要、両者の関連性について学ぶ

◇到達目標

リハビリテーション、医療の意味を知ること。 身体運動・行動・行為を支える人体システムの理解。 「システム不全＝障害」について。 障害を引き起こす疾患の理解。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	リハビリテーションの語源・定義について	講義	
第 2 回	身体各システムの概略・測定法の原理	講義	
第 3 回	理学療法・作業療法・言語療法について	講義	
第 4 回	徒手筋力テスト(MMT)と ROM テストについて	講義	
第 5 回	運動・認知機能について	講義	
第 6 回	中枢神経障害①（錐体路障害・コミュニケーション障害）	講義	
第 7 回	中枢神経障害②（錐体外路障害・大脳基底核の障害）	講義	
第 8 回	脊髄障害・末梢神経障害・筋障害	講義	
第 9 回	脳性麻痺・発達障害	講義	
第 10 回	遺伝疾患について	講義	
第 11 回	骨関節疾患①（関節リウマチ等）	講義	
第 12 回	骨関節疾患②（変形性関節症等・切断）	講義	
第 13 回	循環器疾患・呼吸器疾患	講義	
第 14 回	運動生理学・運動解剖学 まとめ	講義	
第 15 回	試験	試験	

評価方法	☒ 定期試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	資料を配布する
参考図書	「PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論 要点整理と用語解説 改訂第 4 版」（診断と治療社）
留意事項	授業内容について、配布プリントを参考に復習をすること。

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床神経学Ⅱ	前川 基継	2	2	前期	必修

◇講義概要

- ・変性疾患、脱髄疾患、認知症、末梢神経障害、筋疾患等について学ぶ

◇到達目標

- ・言語障害の原因となる、脳・神経疾患の特質がわかる

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	脳神経外科学の復習	講義	
第 2 回	神経内科学総論	講義	
第 3 回	脱髄性疾患① 脱髄性疾患の概要、多発性硬化症と視神経脊髄炎の相違点を理解する	講義	
第 4 回	脱髄性疾患② 急性散在性脳脊髄炎その他の脱髄疾患について	講義	
第 5 回	感染症 頭蓋内感染症の復習とライム病など神経内科的感染症について	講義	
第 6 回	変性疾患① アルツハイマー型認知症など大脳皮質変性が主な疾患について	講義	
第 7 回	変性疾患② パーキンソン病など基底核の変性が主な疾患について	講義	
第 8 回	変性疾患③ 脊髄小脳変性症など小脳や脊髄の変性が主な疾患について	講義	
第 9 回	変性疾患④ 筋萎縮性側索硬化症など運動ニューロンの変性が主な疾患について	講義	
第 10 回	神経筋接合部疾患 重症筋無力症とイートン・ランバート症候群の違いを理解する	講義	
第 11 回	末梢神経疾患 ギランバレー症候群など種々の末梢神経炎について	講義	
第 12 回	骨格筋疾患 筋ジストロフィーなど遺伝性筋疾患と炎症性筋疾患について	講義	
第 13 回	脳血管疾患、外傷性疾患、脳腫瘍等 各疾患のポイントを認識する	講義	
第 14 回	臨床神経学総復習	講義	
第 15 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	・イラストでわかる PT・OT・ST のための神経内科学 改訂 2 版 (メディカ出版)
参考図書	
留意事項	授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
言語聴覚障害診断学Ⅰ	野上尚克、矢田尚子、辻村源希	2	2	前期	必修

◇講義概要

ディスカッションを通して(グループ内、グループ間)を通して知識や気づきを増やし、アウトプットの力をつける。
また発表にあたって、思考を纏める力をつける。

◇到達目標

- ・ディスカッションが行えるようになる。・症例報告書の作成が可能になる。
- ・診断(評価・考察)から訓練の立案までが可能となる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	症例検討 (グループディスカッション) 発表・解説	講義・演習	野上
第 2 回	症例検討 (グループディスカッション) 発表・解説	講義・演習	野上
第 3 回	症例検討 (グループディスカッション) 発表・解説	講義・演習	野上
第 4 回	症例検討 (グループディスカッション) 発表・解説	講義・演習	野上
第 5 回	症例検討 (グループディスカッション) 発表・解説	講義・演習	野上
第 6 回	症例検討 (グループディスカッション) 発表・解説	講義・演習	野上
第 7 回	症例検討 (グループディスカッション) 発表・解説	講義・演習	野上
第 8 回	拡大代替コミュニケーション (AAC) の理解と体験①	講義・演習	矢田
第 9 回	拡大代替コミュニケーション (AAC) の理解と体験②	講義・演習	矢田
第 10 回	摂食嚥下障害に対する電気刺激療法	講義・演習	辻村
第 11 回	症例検討 (グループディスカッション) 発表・解説	講義・演習	野上
第 12 回	症例検討 (グループディスカッション) 発表・解説	講義・演習	野上
第 13 回	症例検討 (グループディスカッション) 発表・解説	講義・演習	野上
第 14 回	試 験 (症例報告書の作成)	試験	野上
第 15 回	症例検討、報告書へのフィードバック等	講義・演習	野上

評価方法	☒ 試 験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	1 年生で使用した教科書・資料
参考図書	適宜紹介
留意事項	ディスカッションのグループは症例毎に変更。 講義後、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなど、復習に励むこと。

令和8年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
言語聴覚障害診断学Ⅱ	田尾史朗・野上尚克・各学科教員	2	2	前期	必修

◇講義概要

・定型発達児の発達段階を学ぶ。 ・小児の言語発達障害児の分析評価を学ぶ。 ・初期評価の実技を学ぶ。

◇到達目標

・定型発達児の発達段階を説明できるようになる。 ・小児の言語発達障害児の検査・分析評価ができるようになる。 ・対象者（小児）への初期評価におけるかかわりができるようになる。
--

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	臨床実習から学ぶ、訓練①	講義/演習	田尾
第2回	臨床実習から学ぶ、訓練②	講義/演習	田尾
第3回	診断学・症例検討とは何か	講義	田尾
第4回	症例検討(小児) エピソードと検査の分析	講義/演習	田尾
第5回	症例検討(小児) インテークの演習	講義/演習	田尾
第6回	症例検討(小児) 訓練のロールプレイ	講義/演習	田尾
第7回	症例検討(小児) 訓練のロールプレイ・総評	講義/演習	田尾
第8回	症例検討(小児) 動画症例分析・レポート作成	講義/演習	田尾
第9回	いのちの授業	講義/演習	各学科教員
第10回	いのちの授業	講義/演習	各学科教員
第11回	症例検討(小児) 訓練のロールプレイ	講義/演習	田尾
第12回	症例検討(小児) 訓練のロールプレイ・総評	講義/演習	田尾
第13回	チーム医療	講義/演習	各学科教員
第14回	チーム医療	講義/演習	各学科教員
第15回	試験	試験	田尾

評価方法	■試験 (50%) □実技試験 (%) □演習評価 (%) □小テスト (%) ■レポート (50%) □その他 (%)
------	---

教科書	配布プリント
参考図書	大塚裕一編著, 井崎基博著『明日からの臨床・実習に使える言語聴覚障害診断 小児編』診断と治療社, 2024年
留意事項	教材作成や事前準備が必要となる授業があります。

令和8年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
失語症Ⅱ	野上尚克・齊藤里恵・外部講師・専任教員	2	4	前期	必修

◇講義概要

・VTRや各種サンプル、先生方や当事者の話から、評価から訓練の実際を学ぶ

◇到達目標

・各種検査を理解し訓練の目的が分かる ・各訓練機期の対応がわかる ・STの活躍の場を知る ・データをまとめて、客観的に症状メカニズムが考察できる ・STの役割を知る ・患者様の問題点をICFで整理し、その他の情報とあわせて、目標を設定し、訓練計画が立案できる ・適切な用語・文章でレポート（症例報告）が作成できる
--

◇授業計画

回数	内 容	講義形態	備考
第1回	失語症のおさらい、小児失語	講義	齊藤
第2回	神経心理学史：失語分類、検査・訓練史	講義	齊藤
第3回	鑑別・掘り下げ検査を理解するⅠ（WAB）①	講義・演習	齊藤
第4回	鑑別・掘り下げ検査を理解するⅠ（重度失語症検査）②	講義・演習	齊藤
第5回	鑑別・掘り下げ検査を理解するⅠ（CADL）②	講義・演習	齊藤
第6回	鑑別・掘り下げ検査を理解するⅡ（TLPA）①	講義・演習	齊藤
第7回	鑑別・掘り下げ検査を理解するⅡ（SALA）②	講義・演習	齊藤
第8回	鑑別・掘り下げ検査を理解するⅡ（R-STA）③	講義・演習	齊藤
第9回	鑑別・掘り下げ検査を理解するⅢ（SLTA-ST）①	講義・演習	齊藤
第10回	SLTA総復習（練習・結果の解釈）	講義・演習	齊藤
第11回	対話会：フリートーク・SLTA（桜の会）	演習	前田・教員 当事者
第12回	対話会：フリートーク・SLTA（桜の会）	演習	前田・教員 当事者
第13回	対話会振り返り	講義・演習	齊藤
第14回	鑑別・掘り下げ検査を理解するⅢ（標準抽象語理解力検査）②	講義・演習	齊藤
第15回	鑑別・掘り下げ検査を理解するⅢ（トークンテスト）③	講義・演習	齊藤
第16回	鑑別・掘り下げ検査を理解するⅢ（モーラ分解・抽出検査）④	講義・演習	齊藤
第17回	失語症友の会における言語聴覚士のかかわり	講義・演習	前田

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

第 18 回	失語症の回復過程	講義	齊藤
第 19 回	失語症の言語治療の理論と技法	講義	齊藤
第 20 回	失語症の言語治療の実際（機能回復訓練）①	講義	齊藤
第 21 回	失語症の言語治療の実際（活動・参加訓練）②	講義	齊藤
第 22 回	急性期・回復期・生活期（慢性期）の失語症者への言語聴覚士のかかわり	講義	齊藤
第 23 回	失語症の言語治療の実際（症例より訓練を考える 症例 1）	講義	野上
第 24 回	失語症の言語治療の実際（症例より訓練を考える 症例 2）	講義	野上
第 25 回	失語症の言語治療の実際（症例より訓練を考える 症例 3）	講義	野上
第 26 回	失語症の言語治療の実際（症例より訓練を考える 症例 4）	講義	野上
第 27 回	失語症の言語治療の実際（実際に訓練を実施し再検討する①）	講義	野上
第 28 回	失語症の言語治療の実際（実際に訓練を実施し再検討する②）	講義	野上
第 29 回	失語症Ⅱのまとめ	講義	齊藤
第 30 回	試験	講義	齊藤

評価方法	☒ 定期試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 演 習（ 20 %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	・標準言語聴覚障害学 失語症（医学書院） ・失語症言語治療の基礎（診断と治療社） ・なるほど失語症の評価と治療（金原出版） ・標準失語症検査マニュアル第 2 版（新興医学出版）
参考図書	
留意事項	講義前の予習や講義後、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなどの復習に励むこと。

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
言語発達障害Ⅱ	井戸 亜美	2	2	前期	必修

◇講義概要

脳性麻痺および重症心身障害の概要を学ぶ。脳性麻痺および重症心身障害に伴う摂食嚥下障害・コミュニケーション障害の評価やアプローチ方法を学ぶ。

◇到達目標

脳性麻痺および重症心身障害の定義・特徴・アプローチ方法を説明できる。摂食嚥下機能面やコミュニケーション面にどのような障害が伴ってくるのか理解・説明できる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	乳児期の運動発達・臨床像	講義	井戸
第 2 回	脳性麻痺の定義・原因・症状	講義	井戸
第 3 回	脳性麻痺のタイプ・病態	講義	井戸
第 4 回	脳性麻痺の運動特徴・合併症・障害受容	講義	井戸
第 5 回	重症心身障害児者の定義・症状	講義	井戸
第 6 回	重症心身障害児者のコミュニケーションの特徴	講義	井戸
第 7 回	摂食・嚥下機能の発達	講義	井戸
第 8 回	脳性麻痺児者・重症心身障害児者の摂食嚥下障害の評価と支援	講義	井戸
第 9 回	脳性麻痺児者・重症心身障害児者の口腔機能面・栄養面の評価と支援	講義	井戸
第 10 回	脳性麻痺児者・重症心身障害児者の言語・コミュニケーションの評価と支援①	講義	井戸
第 11 回	脳性麻痺児者・重症心身障害児者の言語・コミュニケーションの評価と支援②（事例を通して学ぶ）	講義	井戸
第 12 回	脳性麻痺児者・重症心身障害児者の AAC	講義	井戸
第 13 回	AAC 支援（事例を通して学ぶ）	講義	井戸
第 14 回	総まとめ（国家試験を用いて総復習を行う）	講義	井戸
第 15 回	試験	講義	井戸

評価方法	☐ 定期試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	配布資料
参考図書	言語発達障害学（医学書院）
留意事項	講義内容の理解を深めるために、復習に励むこと。

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
言語発達障害Ⅲ	竹下 盛・村井敏宏・奥村智人	2	2	前期	必修

◇講義概要

小児の発達障害である「学習障害」、とりわけ「読み書き障害」は、発達性の高次脳機能障害とも言える。そのため、障害の背景要因及び脳機能との関連を理解し、言語聴覚士としてのアセスメント法・訓練法についての理解を深める。

◇到達目標

- ・学習障害について、教育的定義と医学的定義を理解する。
- ・教科学習の基礎となる、読み書きの困難について理解する。
- ・読み書きの困難の背景要因、アセスメント法、支援方策、指導教材の実際について知る。
- ・学習障害に関連する障害について理解を深める。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	LDの定義と診断基準	講義	竹下
第 2 回	LD理解のための諸情報	講義	竹下
第 3 回	読み書き障害の基礎理解1(かな文字)	講義	村井
第 4 回	読み書き障害のアセスメントと支援1(かな文字)	講義・演習	村井
第 5 回	読み書き障害の基礎理解2(漢字)	講義	村井
第 6 回	読み書き障害のアセスメントと支援2(漢字)	講義・演習	村井
第 7 回	読み書き障害の分類と評価	講義	竹下
第 8 回	LD児の言語・コミュニケーションの問題	講義	竹下
第 9 回	算数障害	講義	竹下
第 10 回	合理的配慮とICT活用	講義	竹下
第 11 回	学習につまずく子どもの見る力①(視機能とは)	講義	奥村
第 12 回	学習につまずく子どもの見る力②(実際の子どもの姿)	講義	奥村
第 13 回	特異的言語発達障害	講義	竹下
第 14 回	総まとめ	講義	竹下
第 15 回	試験及び解説	試験・講義	竹下

評価方法	☒ 試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	配布プリント
参考図書	「言語発達障害学」医学書院、「医療スタッフのための LD 診療・支援入門」診断と治療社
留意事項	予習・復習を行うこと。特に講義後は、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなど、復習に励むこと

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
音声障害	大塚 佳代子	2	2	前期	必修

◇講義概要

咽喉頭の解剖と呼吸発声機能、音声障害の発現機序と分類、評価法、治療法を学ぶ。
--

◇到達目標

「知識・技能」発声の動態に適した音声機能評価や治療手技を選択することができる。 「思考力・判断力・表現力」喉頭内視鏡の所見から、喉頭の病態や発声に関する問題点について説明できる。 「主体性・多様性・協働性」音声に対する興味、関心が高まり、自分自身や他人の声に注意が向く。また、与えられた課題に対し、積極的に他者と共同し取り組むことができる。
--

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	呼吸、発声の生理学的基盤	講義	大塚
第 2 回	喉頭の解剖学的基盤	講義	大塚
第 3 回	音声障害を引き起こす疾患とその治療法(1)	講義	大塚
第 4 回	音声障害を引き起こす疾患とその治療法(2)	講義	大塚
第 5 回	音声障害を引き起こす疾患とその治療法(3)	講義	大塚
第 6 回	音声障害の評価法(1)内視鏡、ストロボスコーピー、聴覚印象評価、等	講義	大塚
第 7 回	音声障害の評価法(2)空気力学的検査、音響学的検査、等	講義	大塚
第 8 回	音声治療(1) 音声治療の流れ、声の衛生指導	講義	大塚
第 9 回	音声治療(2) 症状対処的訓練、包括的訓練	講義	大塚
第 10 回	音声障害まとめ	講義	大塚
第 11 回	無喉頭音声について① メカニズム 検査	講義	大塚
第 12 回	無喉頭音声について② 特徴 リハビリテーション	講義	大塚
第 13 回	気管切開について	講義	大塚
第 14 回	音声障害・無喉頭音声・気管切開まとめ	講義	大塚
第 15 回	試験	試験	大塚

評価方法	☒ 試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第 4 版 医学書院
参考図書	言語聴覚士のための音声障害学 編集 大森孝一 医歯薬出版株式会社

留意事項	授業の最初に前回授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと
------	--------------------------------------

令和8年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
構音障害Ⅱ	南都 智紀	2	2	前期	必修

◇講義概要

特に運動性構音障害のメカニズムと特徴、評価指導・訓練等について学ぶ

◇到達目標

- ・運動性構音障害の分類とその特徴、代表的な原因疾患について説明できる
- ・運動性構音障害の評価に関して、基本的な発声発語器官機能検査、聴覚印象評価の手技を獲得できる
- ・リハビリテーションの流れを把握し、発声、共鳴、構音に関して代表的な訓練方法を理解できる

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	発声発語器官の構造と神経機構	講義	南都
第2回	構音障害の概要と運動性構音障害	講義	南都
第3回	運動性構音障害のタイプ分類と原因疾患、運動機能障害	講義・演習	南都
第4回	聴覚的な発話特徴	講義・演習	南都
第5回	タイプごとの病態特徴と重症度（痙性、弛緩性、UUMN）	講義	南都
第6回	タイプごとの病態特徴と重症度（失調性、運動低下性、運動過多性）	講義	南都
第7回	運動性構音障害の評価（検査の概要、一般的情報の収集）	講義	南都
第8回	運動性構音障害の評価（発話の検査、発声発語器官検査）	講義・演習	南都
第9回	運動性構音障害の評価（発声発語器官検査）	講義・演習	南都
第10回	運動性構音障害の評価（発声発語器官検査）	講義・演習	南都
第11回	運動性構音障害の治療（姿勢、呼吸、発声）	講義・演習	南都
第12回	運動性構音障害の治療（共鳴、構音）	講義・演習	南都
第13回	運動性構音障害の治療（補綴的治療、発話速度の調整）	講義・演習	南都
第14回	運動性構音障害の治療（AAC）	講義	南都
第15回	試験	試験	南都

評価方法	☒ 試験（100%） ☐ 実技試験（%） ☐ 演習評価（%） ☐ 小テスト（%） ☐ レポート（%） ☐ その他（%）
------	--

教科書	配布資料 ディサースリア臨床標準テキスト 第2版 西尾正輝 著／医歯薬出版株式会社 標準ディサースリア検査 新装版 西尾正輝 著／インテルナ出版
参考図書	病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版 医療情報科学研究所 編／メディックメディア
留意事項	実技等へ積極的に参加すること、他者の発声や発話を観察する習慣を身につけること 授業前には、当該授業部分の教科書等を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめること。

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
構音障害Ⅳ	鷺見 麻里	2	2	前期	必修

◇講義概要

口蓋裂の言語臨床に必要な発声発語器官の障害について系統的に学ぶ。
出生から治療終了までの各時期の言語管理について学ぶ。

◇到達目標

治療チームの一員として、出生直後から患児と家族のサポートを行い、言語管理を行うことができるよう、知識と技術を習得する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	イントロダクション	講義	鷺見
第 2 回	解剖 口蓋裂の分類	講義	鷺見
第 3 回	類似疾患	講義	鷺見
第 4 回	鼻咽腔閉鎖機能	講義	鷺見
第 5 回	構音障害	講義	鷺見
第 6 回	異常構音	講義	鷺見
第 7 回	異常構音	講義	鷺見
第 8 回	鼻咽腔閉鎖機能の評価	講義	鷺見
第 9 回	鼻咽腔閉鎖機能の治療	講義	鷺見
第 10 回	構音障害の評価と治療	講義	鷺見
第 11 回	口蓋裂治療の流れ	講義	鷺見
第 12 回	口蓋裂治療の流れ	講義	鷺見
第 13 回	口蓋裂言語検査	演習	鷺見
第 14 回	口蓋裂言語検査	演習	鷺見
第 15 回	試験	試験・講義	鷺見

評価方法	■試 験 (70%)	□実技試験 (%)	□演習評価 (%)
	■小テスト (30%)	□レポート (%)	□その他 (%)

教科書	口蓋裂の言語臨床 第 3 版 医学書院
参考図書	標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第 3 版 医学書院
留意事項	基本的にスライドは配布しないので、教科書に書き込む、ノートをとる等してください。 授業中に分からないことがあればそのままにせず、積極的に質問してください。

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
嚥下障害Ⅱ	板橋 美和・小松 岳・齊藤 里恵 野上 尚克	2	3	前期	必修

◇講義概要

- ・嚥下障害Ⅰで学んだ基礎をふまえ、摂食嚥下障害の基本的な訓練法について学ぶ。
- ・嚥下障害患者における実際の評価・訓練を学ぶ
- ・リスク管理のための必要な知識を学ぶ。

◇到達目標

- ・摂食嚥下のスクリーニング評価が出来る。
- ・訓練計画を立てることが出来る。
- ・学んだことを実習で活かすことができる。
- ・国家試験の過去問題を解くことが出来る。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	基礎の復習(正常嚥下の仕組み)と 誤嚥の種類	講義	板橋
第 2 回	摂食嚥下障害の総合評価と評価スケール	講義	板橋
第 3 回	リハビリテーションアプローチ(4つの方法) 摂食時の姿勢(総論)	講義	板橋
第 4 回	食品調整 食べやすさとは・ゼラチンと寒天の違いなど	講義	板橋
第 5 回	治療的アプローチ(嚥下訓練) 説明と準備について 治療的アプローチ(嚥下訓練) 基礎的嚥下訓練 頭部挙上訓練・押し運動・メンデルソン手技など	講義	板橋
第 6 回	治療的アプローチ(嚥下訓練) 摂食訓練 スライス法・丸飲み法・複数回嚥下など	講義	板橋
第 7 回	治療的アプローチ(嚥下訓練) 摂食訓練 息こらえ嚥下・横向き嚥下・一側嚥下など	講義	板橋
第 8 回	訓練法のまとめと過去問	講義	板橋
第 9 回	チームアプローチ・摂食嚥下障害における倫理の問題	講義	板橋
第 10 回	薬物療法と外科的対応(総論:術式と戦略、過去問)	講義	板橋
第 11 回	脳卒中患者の嚥下訓練の実際	講義	板橋
第 12 回	気管切開のある患者への対処法:カニューレの種類と特徴	講義	板橋
第 13 回	頸部聴診法	講義・演習	齊藤

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

第 14 回	評価・診断の整理・まとめ方	講義	板橋
第 15 回	症例検討 観察の記録（初回評価 VF）	演習	齊藤
第 16 回	症例検討 観察の記録（VF・VE）	演習	齊藤
第 17 回	呼吸リハビリテーションと吸引の基本	講義	板橋
第 18 回	実技① 吸引（吸引器と模擬人形を使用した演習）	講義	板橋 野上 齊藤
第 19 回	実技② 呼吸リハビリテーション	講義	板橋 野上 齊藤
第 20 回	感染症対策	講義	板橋
第 21 回	小児の嚥下	講義	小松
第 22 回	哺乳障害の味方と対応	講義	小松
第 23 回	試験	試験	板橋

評価方法	☒ 試験（100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	脳卒中の摂食嚥下障害 第 3 版 藤島一郎 著／ 医歯薬出版株式会社 標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学 第 2 版 藤田郁代 監修／医学書院
参考図書	動画でわかる摂食・嚥下リハビリテーション 藤島一郎 監修 / 中山書店 摂食嚥下ビジュアルリハビリテーション 稲川利光 編集 / 学研 嚥下障害ポケットマニュアル 第 4 版 聖隷嚥下チーム / 医歯薬出版株式会社 病気がみえる 7 脳・神経 第 2 版 / メディックメディア
留意事項	演習時はケーシー、白靴を着用してください。 授業で使用する教科書とプリントを中心に予習と復習を行って下さい。

令和8年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
吃 音	久保田 功・後藤 文造	2	2	前期	必修

◇講義概要

小児から成人までを見通した吃音臨床について、基礎知識から臨床実践に至るまでの道筋を示し、学生諸君に吃音臨床を志してもらうことを目的とする

◇到達目標

吃音についての基礎的な知識および吃音臨床を行うための ICF 身につける
小児期から成人期に至るまでの吃音臨床を行うための評価方法を身につける
小児期から成人期に至るまでの吃音支援の実践方法を身につける

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	吃音についての基礎知識 小児期から成人期までを見通した吃音の理解	講義	久保田
第 2 回	小児期吃音の評価	講義	久保田
第 3 回	小児期吃音の臨床の実践(年少幼児・年長幼児・学童期前半)	講義	久保田
第 4 回	小児期吃音の臨床の事例提示(年少幼児・年長幼児・学童期前半)	講義	久保田
第 5 回	小児期吃音の臨床の実践(学童期後半・思春期)	講義	久保田
第 6 回	小児期吃音の臨床の事例提示(学童期後半・思春期)	講義	久保田
第 7 回	青年期・成人期の吃音臨床:評価を中心に	講義	久保田
第 8 回	青年期・成人期の吃音臨床:支援を中心に	講義	久保田
第 9 回	青年期・成人期の事例提示	講義	久保田
第 10 回	青年期・成人期の事例提示	講義	久保田
第 11 回	青年期・成人期吃音臨床の実際(指導の疑似体験) 青年期・成人期の学会報告と方法論への道	演習・講義	久保田
第 12 回	青年期・成人期の学会報告と方法論への道、まとめ	講義	久保田
第 13 回	セルフケアグループについて	講義	後藤
第 14 回	セルフケアグループについて	講義	後藤
第 15 回	試 験	試験	久保田

評価方法	☒ 試験 (100%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	なし
参考図書	適宜紹介する

留意事項	特になし
------	------

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
小児聴覚障害Ⅱ	板東美知子・立石篤識	2	2	前期	必修

◇講義概要

- ・小児の聴覚障害の診断に必要な聴力検査（BOA、COR、VRA、ピープショウ検査、遊戯聴力検査、乳幼児聴覚検診など）の原理と方法について学ぶ。
- ・聴覚障害乳幼児への支援について事例を通して学ぶ。

◇到達目標

1. 小児に対する聴力検査を説明できる。
2. 小児への聴能、言語、コミュニケーションへの支援についてすすめ方がわかる。
3. 事例提示した小児への支援内容をグループで討議し、模擬的に実施できる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	聴覚の発達と乳幼児の聴力検査の概要	講義	立石
第 2 回	乳幼児の聴力検査(BOA、COR)	講義・演習	立石
第 3 回	乳幼児の聴力検査(VRA、ピープショウ検査)	講義・演習	立石
第 4 回	乳幼児の聴力検査(遊戯聴力検査、まとめ)	講義・演習	立石
第 5 回	選別聴力検診(乳幼児健康診査)	講義	立石
第 6 回	小児の語音聴力検査、小テスト	講義	立石
第 7 回	幼児期の聴覚学習について	講義	板東
第 8 回	幼児期の聴覚学習の支援の実際	講義・演習	板東
第 9 回	幼児期の言語学習	講義	板東
第 10 回	幼児期の言語学習の支援の実際	講義・演習	板東
第 11 回	幼児期の発音の支援の実際	講義・演習	板東
第 12 回	事例検討①(支援のねらいと内容について、グループで討議・実施し発表)	講義・演習	板東
第 13 回	事例検討②(支援のねらいと内容について、グループで討議・実施し発表)	講義・演習	立石
第 14 回	試験	試験	立石
第 15 回	まとめ	講義	立石

評価方法	■試験（ 80 %） □実技試験（ %） □演習評価（ %） ■小テスト（ 20 %） □レポート（ %） □その他（ %）
------	---

教科書	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学第 3 版（医学書院） 聴覚検査の実際 改訂 5 版 （南山堂）
参考図書	
留意事項	乳幼児の発達のみちすじを確認しておいて下さい。あらかじめ予習し、講義後は内容の理解を深めるためにポイント等をまとめ、復習に努めてください。

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
小児聴覚障害Ⅲ	前田 恵美子・岸田 隆之・吉田智美 板東美知子・	2	2	前期	必修

◇講義概要

・主に小児聴覚障害の療育・教育機関の特徴を知り、指導・支援の実際について学ぶ。

◇到達目標

1. 聴覚障害の福祉や教育の制度や施策について理解する。
2. 小児聴覚障害の療育・教育機関の特徴を理解し、多様な考え方やアプローチの方法があることを知る。
3. 保護者支援の重要性や関係機関との連携について説明できる。

◇授業計画

第 1 回	聴覚器官の発達	講義	岸田
第 2 回	聴覚障害の発生率、障害児数		
第 3 回	先天性あるいは小児期における聴覚障害の原因	講義	
第 4 回	検査（種類と実施）		
第 5 回	療育・教育の制度・施策、療育・教育機関の特徴、就学支援、自立活動、合理的配慮、理解学習	講義	前田
第 6 回			
第 7 回	教育分野における聴覚障害教育 一乳幼児教育の実際一	講義	吉田
第 8 回	教育分野における聴覚障害教育 一地域支援の現状一		
第 9 回	医療現場における聴覚障害者（成人）へのかかわり （補聴器フィッティング、耳なり等について）	講義	前田
第 10 回			
第 11 回	福祉制度について	講義	前田
第 12 回	聴覚障害にかかわる総まとめ		
第 13 回	試験		前田
第 14 回	福祉事業所における聴覚障害児へのかかわり （親へのかかわり、個別支援計画等について）	講義	板東
第 15 回			

評価方法	☒ 試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	プリント配布
参考図書	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学第 3 版（医学書院）
留意事項	各講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめなど行うこと。

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
成人聴覚障害Ⅲ	川江 清子	2	1	前期	必修

◇講義概要

- ・成人聴覚障害の診断や指導・支援で必要となる検査法や評価法を理解し、障害の特性やライフステージ上の課題など、個々のニーズや課題にあわせた指導・支援について学ぶ。

◇到達目標

1. 聴覚障害の診断・指導・支援に必要な検査法、評価法について説明できる。
2. コミュニケーションストラテジーや情報保障、障害認識の意義について説明できる。
3. 社会福祉制度や就労支援・生活支援について理解する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	検査と評価①（聴覚の検査・評価）	講義	
第 2 回	検査と評価②（コミュニケーション方法や言語力の検査・評価）	講義	
第 3 回	指導・支援と計画①（補聴器の活用、聴能訓練）	講義	
第 4 回	指導・支援と計画②（コミュニケーションストラテジー、集団訓練）	講義	
第 5 回	指導・支援と計画③（障害認識）、就労・生活支援	講義	
第 6 回	情報保障（補聴援助システム、手話通訳、要約筆記）	講義	
第 7 回	聴覚障害にかかわる総まとめ	講義	
第 8 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学第 3 版（医学書院） 聴覚検査の実際 改訂 4 版（南山堂）
参考図書	
留意事項	予習・復習を行うこと。特に講義後、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をノートにまとめるなどして復習に努めること。

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
補聴器・人工内耳	森 尚彫	2	2	前期	必修

◇講義概要

補聴器や人工内耳の特徴、装用効果などの概要を学び、聴覚障害領域における言語聴覚士の役割や業務について考察し、理解を深める。

◇到達目標

1. 補聴器と人工内耳の知識を学び、説明できるようになることを目的とする 2. 聴覚補償機器における補聴器と人工内耳の違いを理解し、説明できる 3. 補聴器と人工内耳のそれぞれの効果やリハビリテーションについて概説できる
--

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	難聴と聴覚補償機器について	講義	
第 2 回	補聴器の概要(しくみや機能等)	講義	
第 3 回	補聴器の装用効果や特性、特性測定について	講義	
第 4 回	成人の補聴器フィッティング	講義	
第 5 回	小児の補聴器フィッティング	講義	
第 6 回	補聴器の評価、適合検査について	講義	
第 7 回	まとめ・国家試験過去問演習(補聴器領域)	講義	
第 8 回	人工内耳の概要(しくみや機能等)	講義	
第 9 回	人工内耳の適応基準について	講義	
第 10 回	成人の人工内耳マッピングについて	講義	
第 11 回	小児の人工内耳マッピングについて	講義	
第 12 回	人工内耳の装用効果と限界(両耳装用など)	講義	
第 13 回	人工内耳のトピックス・その他の人工聴覚機器	講義	
第 14 回	まとめ・国家試験過去問演習(人工内耳領域)	講義	
第 15 回	定期試験	試験	

評価方法	■試験 (80 %) □実技試験 (%) □演習評価 (%) ■小テスト (20 %) □レポート (%) □その他 (%)
------	---

教科書	聴こえの障がいと補聴器・人工内耳入門:基礎からわかる Q&A (学苑社)
参考図書	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学第 3 版 (医学書院)
留意事項	毎回の授業内容をしっかり復習しておくこと

令和 8 年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
視覚聴覚二重障害	小間 瑠実	2	1	前期	必修

◇講義概要

- ・当事者の話を聞いて、視覚聴覚二重障害によって何が不自由で何ができるかを学ぶ
- ・ろうベース，盲ベースによる障害、対応の違いを学ぶ

◇到達目標

- ・視覚聴覚二重障害の分類とそれに対するコミュニケーション方法が分かる
- ・いくつかのコミュニケーション手段に興味を持つことができる

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	視覚聴覚二重障害とは？：当事者の VTR をみながら	講義	小間
第 2 回	視覚聴覚二重障害とは？：定義、分類、原因疾患	講義・演習	小間
第 3 回	コミュニケーションモード①	講義・演習	小間
第 4 回	コミュニケーションモード②	講義・演習	小間
第 5 回	評価、訓練方法	講義	小間
第 6 回	AAC、ライフステージ毎の支援と留意点	講義	小間
第 7 回	試験	講義	小間
第 8 回	復習：国家試験の過去問を通して	試験	小間

評価方法	☒ 試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	自作資料
参考図書	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学第 3 版 医学書院
留意事項	予習・復習を行うこと。 様々なコミュニケーションを積極的に使用すること。